

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリントン, ディーター・F・ワークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュコック

企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラウ・R・ロイボーク

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, ジャナ・バトラー, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリーン・ポーター・ガント, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディ・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェーブ

実務運営アートディレクター:M・M・カフサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙]でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み 配送についてのお問い合わせ ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール: cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, タンザニア語, チェコ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フランス語, フランス語, フランス語, フリガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原題—International Magazines January 2006. Japanese. 26981 300

「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語) に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

January 2006 no. 1 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

2 大管長会メッセージ—主の設計図 第一副管長 トーマス・S・モンソン

8 福音クラシック—人に死すべき状態をもたらしたアダムの役割

大管長 ジョセフ・フィールドینگ・スミス

18 ウィルフォード・ウッドラフ

—信仰を擁護し闘う アロン・L・ウェスト

24 歌—主の奇しき御業

ウィリアム・カウパ,

ウィリアム・B・ブラッドベリー,

ラルフ・B・ウッドワード

25 家庭訪問メッセージ—扶助協会の目的

26 姉妹たちの楽しい集まり

リリアン・デロング

30 わたしの人生を変えたレッスン

34 完全な福音—神会の特質

36 選択の自由を賢明に使う

七十人 ドナルド・L・ホルストロム

44 末日聖徒の声

着陸不能 ケネス・B・スミス

父への贈り物 シルビア・ジラード

ドアを開けてはいけない!

ジャネット・ダン

48 読者からの便り



26 姉妹たちの楽しい集まり

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、『リアホナ』を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「モザンビークの安らぎの家」10ページ—奉仕

について、聖文から学べることを話すよう家

族に勧めてください(マタイ 25:40; モーサヤ 2:17-18参照)。自分の住んでいる地域から一家族を選び、記事の中の物語を参考にして、その家族に有益な計画を立てて、実行してください。

「神会の特質」34ページ—ジョセ

フ・スミスの最初の示現について話してください(ジョセフ・スミス—歴史

1:15-20参照)。この経験から

ジョセフ・スミスが学んだ真理について話し合ってください。

記事の3つの項目を家族に割り当て、

神会について末日聖徒が信じていること

を、人に説明できるようなロールプレーを行ってください。

「選択の自由を賢明に使う」36ページ—「必ずしもいつも正しい判断を下せないのはなぜでしょうか。」この問いの答えを家族に紙に書いてもらいます。スパンサー・W・キンボール



青少年

- 10 モザンビークの安らぎの家
ベンジャミン・トーマス・ギャリソン
- 14 良いものの代価 地域七十人 カルロス・E・アグエロ
- 17 すぐに得た答え ンゴツィ・F・オコロ
- 29 アイデアリスト——みんなを仲間に
- 40 神殿について話す シャナ・パトラー
- 43 ポスター——縮んでいませんか？ あなたの標準

14 良いものの代価



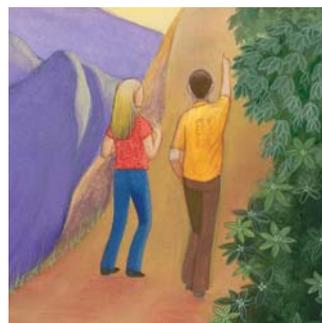
大管長の言葉を参照して、家族が書いた答えについて話し合ってください。河田兄弟の話を読み、なぜ彼が正しい選択をすることができたのかを話し合ってください。自分が正しい選択をしたときに受けた祝福について話してください。

【神殿について話す】40ページ——神殿の写真を見せ、神殿について感じている事柄を、家族一人一人に尋ねてください。末日聖徒でない人が神殿についてどのように思うか、家族に想像してもらいます。記事から質問を幾つか選び、自分ならどう答えるかを家族と話してください。記事中の提案に家族の答えを追加してください。

【気高い道を歩む】F2ページ——可能であれば、周囲より高くなっていく道をドライブするか、歩いてください。「成功と幸福に続く気高い道を歩む」とはどういう意味かを話し合ってください。その場所で、家族でゴードン・B・ヒンクレー大管長の話をよく読み、「成功と幸福に続く気高い道を歩む」という目標を達成するために具体的にできる事柄を確認してください。

フレンド

- F2 預言者の声
——気高い道を歩む
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間
——せいぶんに記されたやくそく
リンダ・マグルビー
- F6 ウィルフォード・ウッド
ラブだいかんちょうのしょうがいから
——かみによってすぐわれた
F8 2006年のわたしの目標 プリトニー・シェッツェラー
- F10 友だちになろう
——ペルーのトルヒーヨに住むシフエンテス家の
カメラ・レオンとアベル マービン・K・ガードナー
- F13 おもちゃばこ せいてんのとうじょうじんぶつのはにんぎょう
F14 勇敢になること シャーメイン・ガブラー・ワーノック



F2 気高い道を歩む

付録

- F2 分かち合いの時間ポスター：わたしは、天のおん父とそのおん子イエス・キリストをしんらいします。——お二方はやくそくをかならずはたされます。

表紙

表紙——ジェイ・フライアント・ワード画 裏表紙——「アダムとエバ」イレイン・エバンス画

「フレンド」表紙

絵／サル・ベルルト、ユーージニオ・マットツィー

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

あかし証	18, 30	信仰	2, F2
アロン神権	F10	神殿と神殿活動	40, 44
安息日	36	救いの計画	8, 36
祈り	17, 44, F2	聖文の研究	F4, F13
ウDDRラフ、ウィルフォード	18, F6	聖霊	44, F10
教えること	1, 30	選択の自由	36
音楽	24	墮落	8
改宗・改心	14, 18, 30	懐み深さ	43
学習	26, 30	伝道活動	10, 14
家庭のタペ	1, F10	バプテスマ	F10
家庭訪問	25	扶助協会	25, 26
逆境	14, 44	ホームティーチング	7
旧約聖書	8, 36	奉仕	2, 10, 26
慈愛	2	守り	44, F6
死すべき状態	8	目標	F8
従順	14, F2	模範	2
備え	F10	約束	F4
初等協会	F4	勇気	F14
神会	24, 34	友情	29
		預言者	18, F6



主の設計図

第一副管長

トーマス・S・モンソン

遠い昔、はるかかなたの地で、イエスは人々の間を巡って教を説かれました。そのとき、よく理解できるように、度々たとえを用いられました。耳を傾ける人々の生活を、家の建築になぞらえて話されることもよくありました。主は「大工の子」¹として知られた御方ではなかったでしょうか。イエスはこうおっしゃいました。「内わで分れ争う……家は立ち行かない。」²後に主はこのように警告されました。「見よ、わたしの家は秩序の家であり、混乱の家ではない、と主なる神は言う。」³

1832年12月27日、オハイオ州カートランドで預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示の中で、主はこのように説かれました。「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。」⁴

永遠にわたって住める家を、賢明にそして適切に築き上げるための設計図として、これ以上ふさわしいものがあるでしょうか。

わたしたちは文字どおりの意味で、永遠の家を建てる建築家です。しかし熟練した職人ではなく、建て方を習い始めたばかりの見習いです。うまく建てるには神の助けが必要です。使徒パウロが語った教えは、わたしたちに必要な確信を与えてくれます。「あなたがたは神

の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」⁵

自分が紛れもなく神の霊の息子であり娘であることを忘れなければ、祈りによって天の御父と交わるのは難しいことはありません。わたしたちが「生命」と呼ぶこの未加工の原材料が持つ価値を、天の御父はよく御存じです。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」⁶この主の言葉は人生における目的を教えてください。

主イエス・キリストを信じる信仰を働かせるなら、進むべき道へと導いてくれる教師が与えられます。主はこう招いておられます。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」⁷

イエスについてこのような記述があります。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」⁸わたしたちは主と同じように成長を遂げようと決意しているでしょうか。聖文の一節には、わたしたちの主である救い主を称賛して、次のように記され



わたしたちは文字どおりの意味で、永遠の家を建てる建築家です。しかし熟練した職人ではなく、建て方を習い始めたばかりの見習いです。うまく建てるには神の助けが必要です。



ています。「イエスは、……よい働きをしながら、……巡回されました。」⁹

信者の模範

パウロは愛するテモテにあてた手紙の中で、わたしたちが自分自身を向上させる方法を明らかにすると同時に、「だれかが、手びきをしてくれなければ、どうしてわかりましょう」¹⁰と深く考えたり問いかけたりする人々に援助の手を差し伸べています。

パウロのテモテに対する答えは、わたしたち一人一人に靈感による勧告を与えています。パウロの知恵にあふれる勧告を注意深く読んでみましょう。「言葉にも、会話にも、慈愛にも、霊にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範となりなさい。」¹¹

まさにわたしたちのために与えられたこの厳粛な教えを、よく味わってみましょう。

第1に、言葉において模範になりなさいとあります。「あなたがたの言葉が互いに教化し合うのに役立つようにしなさい」¹²と主はおっしゃいました。

日曜学校で歌った大好きな賛美歌の歌詞を覚えているでしょうか。

やさしき言葉は心に
永遠に輝かん
互いに語り合はん
やさしき言葉を¹³

メアリー・ボイソン・ウォール姉妹について考えてみましょう。彼女は1913年にソルトレーク神殿でドン・ハービー・ウォール兄弟と結婚しました。81回目の結婚記念日を祝って間もなく、ドンは103歳で亡くなり、後にメアリーも亡くなりました。『チャーチニュース』(Church News)の記事の中で、彼女は、結婚生活を長続きさせ、長生きする秘訣は、優しい言葉を語り合うことであると述べました。メアリーはこう語っています。「優しく語り合うことがわたしたちにとって有益だったのは、そのためにお互いが助け合い、相手に不親切な言葉を言わないよう[心がけることが]できたからです。」¹⁴

第2に、会話において模範となってください。1987年10月の総大会でゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう宣言しました。「汚れた言葉を口にする人は、自分自身を汚してしまうのです。では汚れた言葉を口にするのが習慣になっている人は、どうしたらやめることができるのでしょうか。まず、変

わろうと決心することです。もし悪いと分かっている言葉を使いそうになったら、口に出さないようにしてください。口をつぐむか、別の言い方で話してください。」¹⁵

フランソワ・ダ・ル・ロッシュフーコーはこのように述べています。「言葉に思いやりがある人や、話していて楽しい人が少ないのは、ほとんどの人が、明確な受け答えをすることよりも、自分の言いたいことに心が向いているからです。」¹⁶

第3に、慈愛において模範となってください。コリント人への手紙には次のような美しい真理が語られています。「愛はいつまでも絶えることがない。」¹⁷

自然災害への教会の迅速な対応はすばらしいものです。これまで非常に多くの地域で自然災害が起きてきました。教会が最大の救援手段を携えて被災地に一番乗りすることもしばしばです。このように惜しみなく援助を差し伸べる組織は、ほかにも見られます。

慈愛とは何でしょうか。モロナイは父モルモン語った言葉をこのように記録しています。「この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。」¹⁸

生活の中で慈愛を行動に移す模範を示した人に、ジョージ・アルバート・スミス大管長(1870-1951年)がいます。第二次世界大戦直後に、教会はヨーロッパで苦しんでいる聖徒たちに送る防寒用の衣類を集めました。当時十二使徒定員会会員だったハロルド・B・リー長老(1899-1973年)と十二使徒補助であったマリオン・G・ロムニー長老(1897-1988年)は、衣類がどれほど集まったかを視察するために、ジョージ・アルバート・スミス大管長を案内してソルトレーク・シティーのウェルフェアスクウェアを訪れました。彼らは、教会員が呼びかけに快くこたえてくれたことに感動しました。二人の長老が見守る中、スミス大管長は寄付された大量の衣類や靴を箱詰めする人たちをじっと見ていました。二人は大管長の頬が涙が伝うのを見ました。やがてスミス大管長は、自分の着ていた真新しいオーバーコートほおを脱ぐと、こう言いました。「どうぞこれも送ってください。」

リー長老とロムニー長老は大管長に言いました。「いいえ、大管長。いけません。これを送るわけにはいきません。ここは寒いので、コートが必要です。」

けれども、スミス大管長は引き下がろうとしませんでした。こうして大管長のコートはほかの衣類と一緒に、暗く長い夜が続く衣類と食べ物ほおが不足しているヨーロッパに送られたのです。荷物が到着すると、喜びと感謝の声が上がり、ひそかに祈りがささげられました。



第4に、霊において模範であってください。
詩篇の作者はこのように書いています。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」¹⁹

わたしは17歳のときにアメリカ海軍に志願し、カリフォルニア州サンディエゴの新兵訓練所に入所しました。最初の3週間は、「海軍での訓練は、新兵に生き抜く方法を教えるのではなく、新兵を殺すのが目的なのだろうか」と思えるほど厳しいものでした。

サンディエゴで迎えた最初の日曜日のことをわたしは決して忘れないでしょう。兵曹長が言いました。「今日は全員教会に出席する。」そこでわたしたちは練兵場に整列しました。兵曹長は大声で言いました。「カトリックの者は、キャンプ・ディケーターで集会を行う。前へ進め。3時まで戻って来るな。」たくさんの兵士が行進して行きました。兵曹長は次に「ユダヤ教の者は、キャンプ・ヘンリーで集会を行う。前へ進め。3時まで戻って来るな。」先ほどよりも小さな集団が動きだしました。次に兵曹長は言いました「残ったプロテスタントの者は、キャンプ・ファラガットの講堂で集会を行う。前へ進め。3時まで戻って来るな。」

わたしの心の中を、「モンソン、おまえはカトリックではない。ユダヤ教でもない。プロテスタントでもないのだ」という思いが駆け巡りました。わたしは毅然として立ち続けました。数百人の男たちがわたしのそばを行進して行ったように感じました。そのとき、わたしの前ではかつて一度も口にしたことがないような、兵曹長の優しい言葉が耳に入りました。「おまえたちは一体どこに所属しているのかね。」兵曹長は「おまえたち」と複数形で呼びかけたのです。練兵場でわたしの後ろにだれかが立っていることをそのとき初めて知りました。わたしたちは声をそろえて言いました。「わたしたちはモルモンです。」兵曹長は頭をかき、当惑した表情を浮かべてこう言いました。「よし、行ってどこかに集会の場所を探せ。3時まで戻って来るな。」わたしたちは行進して行きました。まるで、初等協会で習った次のような歌のリズムカルな拍子が聞こえてくるかのようでした。

モルモンとして勇気を持つ
一人でも気高く立ち
福音を固く守り
人々に知らせよう

ハ ロルド・B・
リー長老と
ジョージ・
アルバート・スミス
大管長、
マリオン・G・
ロムニー長老は、
寄付された
大量の衣類と靴を
箱詰めする人たちを
じっと見ていました。
やがてスミス大管長は、
自分の着ていた
真新しい
オーバーコートと脱ぐと、
こう言いました。
「どうぞ
これも送ってください。」





何年も前に、
ワイオミング州
スターバレーで
開かれた
ステーキ大会に
出席しました。
そこで
子供のときに
ウィンターズ会長から
祝福か確認の儀式を
受けたことのある人、
また、聖任や任命、
個人的な助言、
あるいは祝福を
受けたことのある人は
全員起立するよう
求めました。
その結果は
驚くべきものでした。

第5に、信仰において模範であってください。
スティーブン・L・リチャーズ第一副管長
(1879 - 1959年)は信仰について次のように語
りました。「人間よりも優れた力が存在するこ
とを認めても、決して人間の価値が下がるわけ
ではありません。善行と高邁な目的を自分より
も優れた力によって達成できる、という信仰を
持つならば、人はその優れた力を備えた御方
のおられる、より高い目的地と、より高貴な特質
を目指し、この世の苦しみにあっても励ましを
受けることでしょう。……人は信じ、祈り、答
えが与えられるという望みを持ち続けなければ
なりません。真心から祈りながら努力するな
らば、必ず答えが与えられます。それこそがま
さに信仰の真髄なのです。」^{けんそん}20 謙遜に求める人
には必ず神の恵みが授けられます。

ミニー・ルイズ・ハスキンスは、この原則を
美しい詩に表しました。

時の門に立つ者に向かい、わたしはこう言った。
「未知の世界へ安心して行けるように光をよ
すい。」

彼は答えた。

「^{くらやみ}暗闇に入り、あなたの手を神の手にゆだね

なさい。

光に照らされた明るい道を歩むより、その方
があなたのためになり、歩き慣れた道を歩むよ
り安全である。」²¹

最後に、純潔において模範であってください。
「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に
立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむな
しい事に望みをかけない者、偽って誓わない
者こそ、その人である。

このような人は主から祝福をうけ、その救の
神から義をうける。」²²

デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970
年)はこう言いました。「わたしたちの国の安全
は、家庭の清さと強さにかかっています。家
族を強めることに関して、そして善い両親の影
響に関して、家庭は世界で最も神聖な場所で
なければならないという教えが……教会にあ
ることを、神に感謝します。教会の人々は家庭
の建設者であり、家庭は世の悪影響から保護
され、清く安全であるべきだということが、子
供から年長者に至るまで、世界中で教えられ
ています。」²³

御父の感謝

何年も前に、ワイオミング州スターバレーで開かれたステーキ大会に出席しました。そこではステーキ会長会が再組織されました。解任されたステーキ会長、E・フランシス・ウィンターズ兄弟は、それまで23年間という長期にわたって忠実に責任を果たしてきました。生来控えめな性格でしたが、ウィンターズ兄弟はスターバレーのすべての人にとって、常に心のよりどころとなっていました。ステーキ大会の当日、会場は満員で、外に人があふれ出るほどでした。人のために自分の生活を顧みることなく働いてきたこの気高い指導者に対して、一人一人が心の中で「ありがとう」と言っているように感じました。

話す順番が来て、立ち上がると、わたしはそれまでに一度もしたことがなく、その後も一度もしたことのない、あることをするよう御霊の導きを受けました。フランシス・ウィンターズ兄弟がどれほど長くステーキ会長を務めたかを述べてから、子供のときにウィンターズ会長から祝福か確認の儀式を受けたことのある人は起立して、そのまま立っているように求めました。次に、彼から聖任や任命、個人的な助言、あるいは祝福を受けたことのある人は起立するよう求めました。その結果は驚くべきものでした。会場にいたすべての人が起立していたのです。涙があふれて、言葉以上に心からの感謝を物語っていました。わたしはウィンターズ会長と姉妹に向かって、こう言いました。「わたしたちは今日、御霊のささやきを受けた証人です。この大勢の人たちは、各自の感謝の念だけでなく、素晴らしい人生を歩んできたお二人に神が感謝しておられることを示しているのです。」その日の集會に集まった人の中で、主の御霊が語る言葉の証人となったときの気持ちを忘れる人はいないでしょう。

フランシス・ウィンターズ兄弟はまさに、「言葉にも、会話にも、慈愛にも、霊にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範」だったのです。²⁴

われら受けし信仰持ち、
殉教者の持つ真理を信じ
戒め守らん、
手に心に霊にも²⁵

わたしたち一人一人が、そうできますように、へりくだって祈ります。■

注

1. マタイ 13：55
2. マタイ 12：25
3. 教義と聖約 132：8
4. 教義と聖約 88：119
5. 1コリント 3：16
6. 教義と聖約 18：10
7. マタイ 11：28-30
8. ルカ 2：52
9. 使徒 10：38
10. 使徒 8：31
11. 欽定訳1テモテ 4：12から和訳
12. 教義と聖約 136：24
13. ジョセフ・L・タウンゼンド「親しく語り合はん」『賛美歌』140番
14. “Lives of Kindness, Service”
Church News, 1996年9月21日付, 10で引用
15. 「主の名をみだりに唱えてはならない」『聖徒の道』1988年1月号, 50参照
16. *Maxims* (1959年), 54
17. 1コリント 13：8
18. モロナイ 7：47
19. 詩篇 51：10
20. Conference Report, 1937年10月, 35, 38
21. “The Gate of the Year,”
ジェームズ・ダルトン・モリソン編, *Masterpieces of Religious Verse* (1948年), 92から引用
22. 詩篇 24：3-5
23. Conference Report, 1909年4月, 66
24. 欽定訳1テモテ 4：12から和訳
25. エバン・スティーブンス「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家を建てる過程について家族と話し合う。4段落目を声に出して読む。「永遠の家を建てる建築家」として家族が神から受けた助けを紹介するよう勧める。

2. 木片や紙コップ/マグカップ、積み木などで小さな「家」を造る。それぞれには、欽定訳1テモテ 4：12に述べられている6つの要素を記したラベルを付ける。一つ積むごとにモリソン副管長がその要素について述べた言葉を読む。一つ一つの要素がなぜ大切だと思うか、考えを分かち合ってもらおう。自分にとって「信者の模範」となっている人について考えるように言う。

3. この記事のE・フランシス・ウィンターズの話を紹介し、主の設計図に従うときに得られる祝福について証を述べる。



人に死すべき状態をもたらした アダムの役割



第10代大管長
ジョセフ・フィールディング・スミス
(1876-1972年)

ジョセフ・フィールディング・スミスは長年にわたって、福音と聖文に造詣が深いことで有名でした。55年以上もの間、十二使徒定員会の会員として働いた後に、1965年10月には副管長として、また1970年には大管長として支持されました。1967年10月に、「アダムの墮落」として知られる人間の祝福についての説教を行いました。

アダムはエデンの園に置かれたときに、永遠の父なる神の前にいました。アダムは御父と語り、御父もアダムと語られました。しかし、あることが起こりました。それは起こらなければならなかったことです。アダムはある実を口にしました。わたしの欽定訳聖書には、〔注釈者の言葉に〕アダムの墮落は「人の恥ずべき墮落」〔である〕とあります。しかし、それは決して恥ずべき墮落などではありませんでした。

アダムがこの地上に生まれたのは死すべき体をもたらすためでした。その結果、アダムとエバは後に生まれてくることになる子孫ともども、永遠の御父の前から追放されることになりました。そのときから神の御子はわたしたちの贖い主となられたのです。……救い主こそ人間と天の御父との間に立つ御方です。……御子は人間と永遠の御父との間の仲保者です。天の御父への祈りがその愛子の名によらずにささげられるのを耳にすることはまずありません。それは理にかなっていません。キリストは御父の代表者としてこの地上にやってきました。キリストは、御父がどのような御方なのか、御父を礼拝することがなぜ必要なのか、御父をどのように礼拝すればよいのかを人間に教えるためにこの地上に来られたのです。キリストは御自身の血を流すことによって、この現世で最も大いなる業を成し遂げられました。その血は永遠の父なる神に対して人間が負っている負債を返済するものでした。そして、この負債は人間がアダムの墮落以後、受け継いできたものです。

扉を開けた二人

アダムは、自分がしなければならなかったことを行っただけです。アダムはある良い動機でその実を食べました。それにより、皆さんやわたし、またすべての人をこの世に送り出す扉が開けられました。アダムとエバはエデンの園にとどまることもできました。エバがあることをしなかったなら、彼らは今日までエデンの園にいらることができたでしょう。

いつの日か、母なるエバと話す機会に恵まれるとしたら、エバに感謝したいと思います。その実を口にしようアダムに勧めたからです。アダムはその誘いに応じました。その結果、子供たちがこの世に生まれて来ることになりました。……エバがアダムにそのような影響を及ぼさなかったとしたら、またアダムが最初に与えられた戒めに従って行動していたとしたら、二人は今でもエデンの園にとどまったままで、わたしたちはここにはいなかったでしょう。この世に来ることはなかったでしょう。ですから、聖書に……「人の恥ずべき墮落」と説明した先ほどの注釈者は大きな間違いをしたことになります。

さて、アダムは主から期待されたことを実行に移しました。なぜなら、アダムの行為によって死すべき状態に通じる扉が開けられたからです。そして、わたしたちは、ほかのいかなる場所においても、またほかのいかなる方法をもってしても受けることのできない、死すべき状態における訓練を受けるためにこの死すべき世にやってきました。わたしたちがこの世にやってきましたのは、あらゆる祝福と試練を経験するためであり、死すべき状態で死すべきこの世から得られる教訓、あるいは死すべきこの世に置かれている間に得られる教訓を学ぶためでした。だからこそ、苦痛や病を受ける

ようになったのです。わたしたちが主から受けてきたものはすべて、主の戒めを守ることによって与えられた祝福です。そしてこれからも主に従い、正直で誠実であるならば、日の栄えの完全な栄光を受ける資格を与えられた神の息子、娘として、永遠の父なる神のもとへと戻ることができるのです。

死すべきこの世に生きる特権

この日の栄えの大なる祝福は、死すべきこの世に生きることなしに人間にもたらされることは、絶対になかったでしょう。だからこそ、わたしたちは死すべきこの世に来たのです。わたしたちは学校、すなわちこの世という学校に通い、経験や訓練を積み、喜びや苦しみを味わいます。それは、あらゆることにおいて教育を受け、主の戒めに正直で誠実であることを条件に、神の息子、娘、イエス・キリストの共同の相続人となる準備をするためです。また、主の前でいつまでも永遠に子孫が増え続け、満ちみちて、恐らくは、わたしたちが自らの信仰によって、もろもろの世界を造り、人を住まわせる準備をするためなのです。

兄弟姉妹の皆さん、祈るときにアダムについて主に感謝しましょう。アダムがいなければ、わたしはここにはいなかったでしょう。皆さんもいなかったでしょう。そして、だれかが……ある条件を満たして死すべき体をもたらしてくれるようにと願いながら、わたしたちは霊として今でも天で待ち続けていたでしょう。

わたしたちは経験、すなわちほかのいかなる方法でも受けることのできない訓練を受けるために、この死すべき生涯を送っています。そして[わたしたちが]神々となるためには、死すべきこの世という学校で、苦痛、病気、さらにはこの世で経験することになっているほかの様々な事柄について何かを学ぶ必要があるのです。

したがって、兄弟姉妹の皆さん、アダムについて不満を漏らしたり、あのようなことをしなければよかったのになどつぶやいたりしないでしましょ。わたしはアダムに感謝したいと思います。この地上に生まれ、死すべき状態を経験する特権にあずかり感謝しています。教会の会員として、また神の王国にあって自分に与えられている聖約と義務に正直で誠実であるならば、わたしは永遠の御父のもとに戻る特権を与えられるでしょう。そしてこの特権は、日の栄えの完全な栄光を受ける資格を与えられた神の息子、娘として、わたしと同様、皆さんにも授けられることでしょ。■

この話は1967年10月の総大会説教を基に、見出しを付加し、句読点や大文字使用やつづりに関しては現代の表記法に合わせて編集されています。



モザンビークの 安らぎの家

モザンビークでは、青少年の献身的な奉仕を通じて、
人々の心に安らぎが与えられています。

ベンジャミン・トーマス・ギャリソン

モザンビーク。この名前を聞くと、珍しい野生の動物、一面に青々と茂った草木、白い砂浜を心に思い浮かべるかもしれません。恐らく、こうしたイメージに促されて地図を広げ、それがアフリカ南東部に位置する国だと知るのでしょ。しかし、マリア・ダ・コンセイサオにとって、この国は我が家なのです。そして
インハミズア支部

の会員と数人の宣教師の働きによって、マリアには今、モザンビークに自分自身の場所と呼べる所があります。

マリアは体は小さくても心は大きな女性です。夫と長女が家を出て行ってしまったため、マリアは、自分だけで二人の小さな子供を育てなければならな



奉仕するために集まる
モザンビークの青少年。

くなりました。生まれつきの病気で徐々に体力が衰え、手足が不自由になったマリアは、毎月大変な思いで家賃を払っていました。失業率の高いこの国で、仕事を見つけ収入を得るのはほとんど不可能なことです。そのような中であっても、マリアは生活を切り詰め、最善を尽くしました。

わたしはモザンビークで専任宣教師として働きました。初めてマリアと会ったとき、積極的な態度と生き抜こうという熱意に感銘を受けました。自活して二人の子供を養い、土でできた小さな家の家賃を払うために、自分のマチャンバ(畑)で休む間もなく働きました。

教会員は食物と医療費を提供することで、援助しました。痛ましいことに二人の子供は病気にかかり、適切な

医療施設を利用できなかったために、一人が亡くなり、それから3週間とたたないうちにもう一人も亡くなりました。死と苦しみはモザンビークでは日常茶飯事なのです。

小さな支部の支部長として働いていたわたしは、マリアのことをほんとうに心配しました。マリアを助けようと、青少年も成人会員もできることはすべて実行しました。マリアのマチャンバで働く人もいましたし、食物を提供する人もいました。また、家賃の支払いを助ける人たちさえいました。しかし、マリアは一時的でなく永続する解決策を必要としていたのです。

夜遅く、答えを求めて熟考していたときに、わたしは靈感を受けました。それはマリアのために家を建てるという、青少年の大きなプロジェクトに関する構想でした。わたし

マリアは
助けを
必要としていた。

そのとき

インハミズア支部の
会員と宣教師は、
彼女の人生を少しでも
改善するという話にも
ろ手を挙げて
賛成した。



ギャリソン長老とマリア・ダ・
コンセイサオ。マリアの家の前で。

は同僚のビスネト長老とともに、この構想を支部の若い会員たちに持ちかけてみました。するとマリアのために家を建てるというこの話にもろ手を挙げて賛成してくれたのです。資金はほとんどなく、なすべき仕事は山ほどありました。しかし、喜んで協力してくれる人は大勢いましたし、土と木でできたアフリカの伝統的な家がどういうものかは分かっていたので、計画はやがて具体化し、青少年は仕事に取りかかりました。

木を抱えて歩く

全員が即座に働き始めました。最初の仕事、それは木材を手に入れることでした。

アフリカのジャングルに分け入り、建築用の木材を集める作業は、気の弱い人には向いていません。青少年と宣教師は、沼地の多いうっそうとした草原、無限に続く水田、植物の生い茂ったジャングル、腰までもつかうような泥沼の中を2時間かけて幾度となく往復しました。それもこれも皆、マリアの家を建てる完璧な木材を探すためでした。マシェティ(伐採用の大なた)で細長い木を切り倒し、運んで帰れるようにと幾つもの束にしました。青少年の中には、ごつごつした丸太から頭を守る帽子を、背の高い野生の草で手際よく編む人もいました。

今や、最も困難な行程が始まりました。重い荷物を頭に載せ、うっそうと茂ったやぶをかき分け、じりじりと照りつけるアフリカの太陽に悪戦苦闘しながら、木材の束を運んで帰りました。そのような中であっても、青少年は笑みを浮かべシオンの賛美歌を歌いながら歩きました。

アルバス・エリディオ・エギマネ・ラサオ(18歳)はこう語っています。「仕事はほんとうに大変でしたが、最初から最後まで楽しんで働きました。」

頑丈で長持ちするようにとの配慮の下に、木の骨組みが一つまた一つと組まれていきました。惜しみなく働く多くの人が、プラスチックの細い板を何枚も敷いて屋根を組み立て、雑草を編んで作ったマットでしっかりと固定しました。屋根は毎年の雨季に付き物の暴風雨に耐えられるものでなくてはなりません。

泥を造る

泥製の壁から泥製の床、果ては泥団子に至るまで、建築のほとんど全工程で、泥は必需品でした。次から次へと大量の濃い褐色の土を運び込み、水と混ぜ合わせます。何十人もの青少年と支部の会員たちが押しかけ、手で泥をこね、木

の骨組みの上に塗る作業を手伝いました。まず家の外側から着手し、次に内側の壁と間仕切りの部分を作りました。壁が厚さ約10センチの乾燥した強固な泥で覆られると、家は次第に仕上がってきました。室内を仕上げるために特別な泥を丹念に上塗りして、土間を造り、表面を硬く水を通さない作りにしました。

全工程、ずっと重労働ばかりでしたが、陽気な話し声とたくさんの笑顔に満ちあふれていました。宣教師と青少年が何束もの木、何リットルもの水、そしてこねた泥を運ぶ姿を見て、近所の人々が目を丸くしたのは言うまでもありません。

最後に戸をはめ鍵^{かぎ}を取り付けて、家は完成しました。40人を超える会員と多くの宣教師による、延べ1,000時間以上もの奉仕の結果、マリア・ダ・コンセイサオは立派なマイホームを持つことができたのです。

マリアの家は完成しましたが、このプロジェクトに付随して、たくさんの良い結果が生まれました。

ヘルダー・マヌエル・トモ(19歳)は、教会員になる前に、この家造りを手伝いました。こう語っています。「マリアの家を建てるプロジェクトは素晴らしいものでした。わたしは、仲良しであり、間もなく伝道に出る予定だったジョンキエロと一緒に初めて教会に行きました。教会はほんとうに楽しかったのですが、それでも場違いな所にいると感じました。」

家の建築に時間を割いているうちに、ヘルダーは支部の青少年と親しくなりました。「自分も教会の一員だと初めて感じたこととたくさん友達ができることで、バプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となる決意ができました。バプテスマはジョンキエロが施してくれました。彼が教会に誘ってくれたこと、この素晴らしい奉仕のプロジェクトを通じて教会に『溶け込める』よう助けてくれたことに心から感謝しています。」

ジョンキエロ・アライ・マラシア(22歳)はこう語っています。「あれは支部の全会員にとって素晴らしい奉仕プロジェクトでした。楽ではありませんでしたが、ほんとうに間違いなく、やり



モザンビークについて

アフリカ南東部の海に面するモザンビークは人口ほぼ1,900万、そのうち約3,000人が教会員である。教会で339番目の伝道部、モザンビーク・マプト伝道部は2005年1月に組織され、約30人の専任宣教師が働いている。

がいのある仕事でした。」彼は、このプロジェクトは支部全体を一つにしたと語っています。

ジョンキエロは次のようにも語っています。「青少年に心から感謝しています。そして、彼らがヘルダーに友情を示してくれたことに感謝しています。」ヘルダーは現在支部宣教師として熱心に働いており、近々伝道に出る予定です。

モザンビークの人里離れた村にある小さな土地に、福音の原則に対する愛と従順の証としてマリア・ダ・コンセイサオの家が立っ

ています。マリアとインハミズア支部の会員は、人生の厳しい試練の中にあっても、良い結果を出そうと皆が一つになって働くときに希望が生まれる、ということを学びました。■

ベンジャミン・トーマス・ギャリソンはモザンビーク・マプト伝道部で専任宣教師として働きました。

編集者注——インハミズア支部の会員のしたことは、マリアの家を建てただけにとどまりませんでした。その後、有志と宣教師で2軒の家を建て直しました。

40人以上の
有志による
延べ
1,000時間以上の
奉仕によって、
マリアは
新しい家と
より快適な生活を
手に入れることが
できた。



良　い　も　の の 代　価



南アメリカ南地域
地域七十人
カルロス・E・アグエロ

良いものを得るための
代価は、
忍耐、謙遜、
従順によって、
前もって
支払われているのです。

これまで個人的な経験を通して、わたしたちが自分自身を知っている以上に、主はわたしたちのことを御存じであることを学んできました。そして、神権指導者から受ける約束は信頼できることも知りました。主の御霊を通して主が与えてくださる約束だからです。戒めを忠実に守るなら、約束が成就することを御霊によって確信できるでしょう。

わたしは14歳のとき、二人のアメリカ人宣教師に出会いました。モルモン書について聞いてみたいと思ったわたしは、訪問してもらおう約束をしました。家族全員で最初の話を書きましたが、興味をもって続けて聞いてみようという者はだれもいませんでした。しかしわたしは何かを感じ、メッセージが真実だと直感しました。そこで宣教師の話の続けて聞くことを許してくれるよう両親に頼みました。両親の許可を得て、15歳になる直前にバプテスマの水に入り、アルゼンチン、メンドーサ地方部のゴドイクルス支部の会員になりました。

翌年、人生の大きな試練に遭いました。両親が離婚したのです。そのような難しい時期にあって、幸いにもわたしには教会があり、す

ばらしい教師や指導者、友人たちの助けを受けることができました。またちょうどそのころアロン神権の祭司の職を受け、11歳の妹にバプテスマを授けることができました。

新しい言語を学ぶ

その後数年間、フルタイムの仕事に就きながら、夜間学校に通いました。19歳になり、宣教師申請書を提出しました。フランス、パリ伝道部への召しを受けた日のことは生涯忘れないでしょう。そこにはジョセフ・フィールディング・スミス大管長のサインがあり、日付は1972年6月16日となっていました。スミス大管長が亡くなるほんの数週間前のことです。

延々と続く手続きの末にパスポートを手に入れ(わたしは未成年で、両親は離婚しており、しかも入隊する年齢だったので、入手が難しかったのです)、申請書を出してから1年半後、ようやく伝道に出ることができました。フランスのパリに旅立ったものの、フランス語は学校で5年間習っただけでしたし、英語はといえば、まったく分からない状態でした。伝道部では、ゾーン大会は英語で行われていました。また、当時南アメリカには神殿がなかったため、エンダウメントはまだ受けていませんでした。

伝道を始めて1か月後、ウィリス・D・ウェイト伝道部長がわたしとフランス人の若者ジーン・

コリン兄弟の二人を、エンダウメントを受けるためにスイス神殿に行かせてくれました。一晩中電車で揺られた後、感動的で霊的な3日間を過ごしました。

伝道して6か月目に入ったときに開かれた伝道部大会中、伝道部長と特別な面接がありました。簡単に言うと、ウェイト伝道部長はこう言ったのです。「アグエロ長老、あなたにある課題を上げましょう。あなたは英語を学ばなければなりません。故郷に帰ったら、ステーキ会長会の一員となり、伝道部長となり、教会の指導者となるからです。中央幹部と話すために、英語が必要になるからです。」

わたしは笑ってしまいました。恐らく20歳のわたしには、そのような責任に就いている自分の姿など想像できなかったからでしょう。アルゼンチンでは当時まだ3つしかステーキが組織されておらず、しかもわたしの出身ステーキは最も歴史が浅かったことも笑ってし

まった理由だと思えます。

伝道部長は言いました。「笑わないでください、アグエロ長老。まじめに言っているんですよ。」

わたしはこの指導者から、とても強く御霊を感じました。それから伝道部長は、その課題を達成する方法を教えてくださいました。

彼は言いました。「これから毎日、同僚と話すとき、一日の半分は英語だけを使ってください。」

同僚も面接で同じことを言われ、わたしたちはそのようにしました。わたしにとって最初は実に大変でした。

でも、よく努力したおかげで、やがて相手が一体何を言いたいかわぐら

いは理解できるようになりました。

夜祈るとき、挫折感と無力感

に泣いたことが何度もあり

ました。それは、与えら

れたこの務めを従順に

果たしたいという、そ





英語を
学ぶようにという
伝道部長の勧めに
従ったおかげで、
伝道後、七十人の
ハートマン・レクター・
ジュニア長老をはじめ、
幾人も中央幹部の
通訳をすることが
できました。

の思いからだったのです。

数か月がたち、同僚も数回変わったころ、奇跡が起きました。ゾーン大会である宣教師が英語ですばらしい話をしていたとき、わたしは突然その言葉のすべてを理解し始めたのです。奇跡はそれで終わりではありませんでした。やがてわたしは伝道部の会計担当書記として働くようになり、それが英語を読んだり書いたりする助けとなりました。『チャーチニュース』(Church News)や『エンサイン』(Ensign)など、英語で書かれた印刷物を読み、理解しようとしました。そうする中で英語の感覚が身に付き始めました。その感覚は今もわたしに備わっています。

神殿での通訳

伝道を終えて帰国すると間もなく、ステーキ会長から、当時七十人であったハートマン・レクター・ジュニア長老の通訳をするように頼まれました。彼がアルゼンチンのメンドーサに来てステーキ大会を管理するというのです。以来何年にもわたって幾度も、こうした願ってもないような機会に恵まれました。アルゼンチン・ブエノスアイレス神殿の11回の奉献のセッションの間、トーマス・S・モンソン副管長や何人かの中央幹部の通訳をしたこともありました。

そのうちの4回のセッションで、わたしは日の栄えの部屋の聖壇に立って、奉献の祈りをスペイン語で読み上げました。感動で声は何度も詰まり、涙があふれて頬を伝いました。わ

たしが読んでいたのは、靈感による祈りと、天の御父が祖国に与えてくださった約束の言葉でした。天の御父は生きておられ、御心を示してください。それはちょうど12年前、英語を学ぶようにという難しい課題を受け入れたときに、伝道部長を通して御心を示されたのと同じです。

わたしはまた、ウルグアイ・モンテビデオ神殿の4回の奉献のセッションと、パラグアイ・アスンシオン神殿の4回の奉献のセッションの際、預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の通訳もしました。

主の宮で預言者にして聖見者、啓示者の傍らに立つという瞬間がわたしにとってどんなに神聖だったかを説明するのは非常に難しいことです。それはまるで、イエスが身を変えられるのを目にするという驚くべき経験をしたときの、ペテロやヤコブ、ヨハネが感じたような気持ちだと思います。ペテロがイエスに語った言葉は、わたしの思いを代弁しています。「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。」(マタイ17:4)

このような様々な経験を通して、主が人生においてどのように働きかけてくださるかを学びました。良いものを得るための代価は、わたしたちの忍耐、謙遜、従順によって、特に試練に遭うときに、前もって支払われているのです。もしも試練に遭ってあきらめたり、挫折感や落胆に打ち負かされたりしなければ、試練はわたしたちを霊的に精錬し、より良いものに備えてくれるでしょう。そしてやがて、人生ですばらしい奇跡が起こるのを見ることでしょ。■

カルロス・E・アグエロ長老は、1996年から2005年まで地域七十人として奉仕しました。

すぐに得た 答え

ンゴツィ・F・オコロ



ナイジェリアのラゴスにある学校の学期末、これまで一生懸命勉強してきたわたしには、今学期は良い成績が取れるという自信がありました。ところが経済学の先生から職員室に呼ばれ、平均より低い成績だったことを知らされました。耳を疑いました。「そんなはずはありません」と先生に答えました。

先生はわたしのテストの点数の記録を見せてくれました。そこには間違った点数が書き込まれていたのです。これは正しくないと言明しました。先生は、これが間違いであることを証明する唯一の方法は、明日の朝9時までにテスト用紙を持って来ることだと言いました。

翌朝、朝の用事を済ませた後、テスト用紙を捜しました。まずテスト用紙を挟んだはずの本を捜しましたが見つかりません。ほかの本に挟んだかもしれないと思って本という本を捜しましたが、やはりありません。次に教科書や洋服をしまっておくたんすの中も調べました。でもそこにもありませんでした。もう一度本棚のところへ行って捜しました。午前8時。あと1時間以内に持って行って見せなければ、先生はもうわたしの話を聞いてくれないのです。テスト用紙はどこへ行ってしまったのだろうと考えると、涙が出てきました。ほんの短い間でしたが、見つける望みを失ってしまったのです。

そのときふと思いついたのは、祈らなければならないということでした。すぐに目を閉じて本棚の前にひざまずきました。祈りながら、テスト用紙はなくなってしまったのではない

という静かな確信を得ました。目を開くと、驚いたことに本棚のいちばん上にテスト用紙を挟んでおいた本が見えたのです。本の中には必死で捜していたテスト用紙がありました。その瞬間、悲しみは消えて、目には喜びの涙があふれました。

学校に行ってから、天の御父からどれほど愛されているか、そして祈りがすぐにこたえられたことにどれほど自分が感謝しているかについて考えました。1時間かかって捜しても見つけれなかったのに、主に願い求めたら一瞬に見つかったのです。

あの日、短い祈りによって、天の御父がわたしを愛し、求めれば祈りを聞いてくださると知ることができました。神には何でもできることを学びました(ルカ18:27参照)。子供であるわたしたちが必要なきにはいつでも祈り求めるように、天の御父は望んでおられます。そうすれば祈りにこたえてくださるのです。■

ンゴツィ・F・オコロはナイジェリア・イバダン地方部、イバダン第1支部の会員です。

ウィルフォード・ウッドラフ

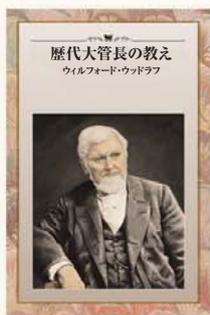
Wilford Woodruff

信仰を擁護し闘う

ウッドラフ大管長は、回復されたイエス・キリストの福音を擁護するために闘う一方で、今日のわたしたちの生活にも関連する原則を教えました。

アロン・L・ウェスト

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、「福音の回復に対する活力に満ちた力強い証を心の中に培う」よう勧告しています。¹ この勧告に従おうと熱心に努める人は、ヒンクレー大管長の前任者の一人、末日聖徒イエス・キリスト教会の第4代大管長ウィルフォード・ウッドラフ(1807 - 1898年)の目を通して「回復」を見るなら、多くのことを学べるでしょう。



真実の教会を探し求める

1820年代に、ジョセフ・スミスは最初の示現を見、天使と語り、神の力によって金版を翻訳し、神権の権能を受けました。同じころ、隣の州ではウィルフォード・ウッドラフという名の若者が、真実の教会を探していました。ウッドラフ大管長は当時のことをこう述べています。「神の教会が再び地上に確立されて、自分は生きてそれを見るだろうと信じていました。」²

真理を見いだすことを熱望していたウィルフォード・ウッドラフは、近隣で開かれた宗教に関する集會に数多く出席していました。ある集會で、だれでも発言してよいという許可が与えられました。40人かあるいはそれ以上の様々な宗派の聖職者が出席している中、ウィルフォードは弱齢ながらも立ち上がり、通路に進み出て、語りました。

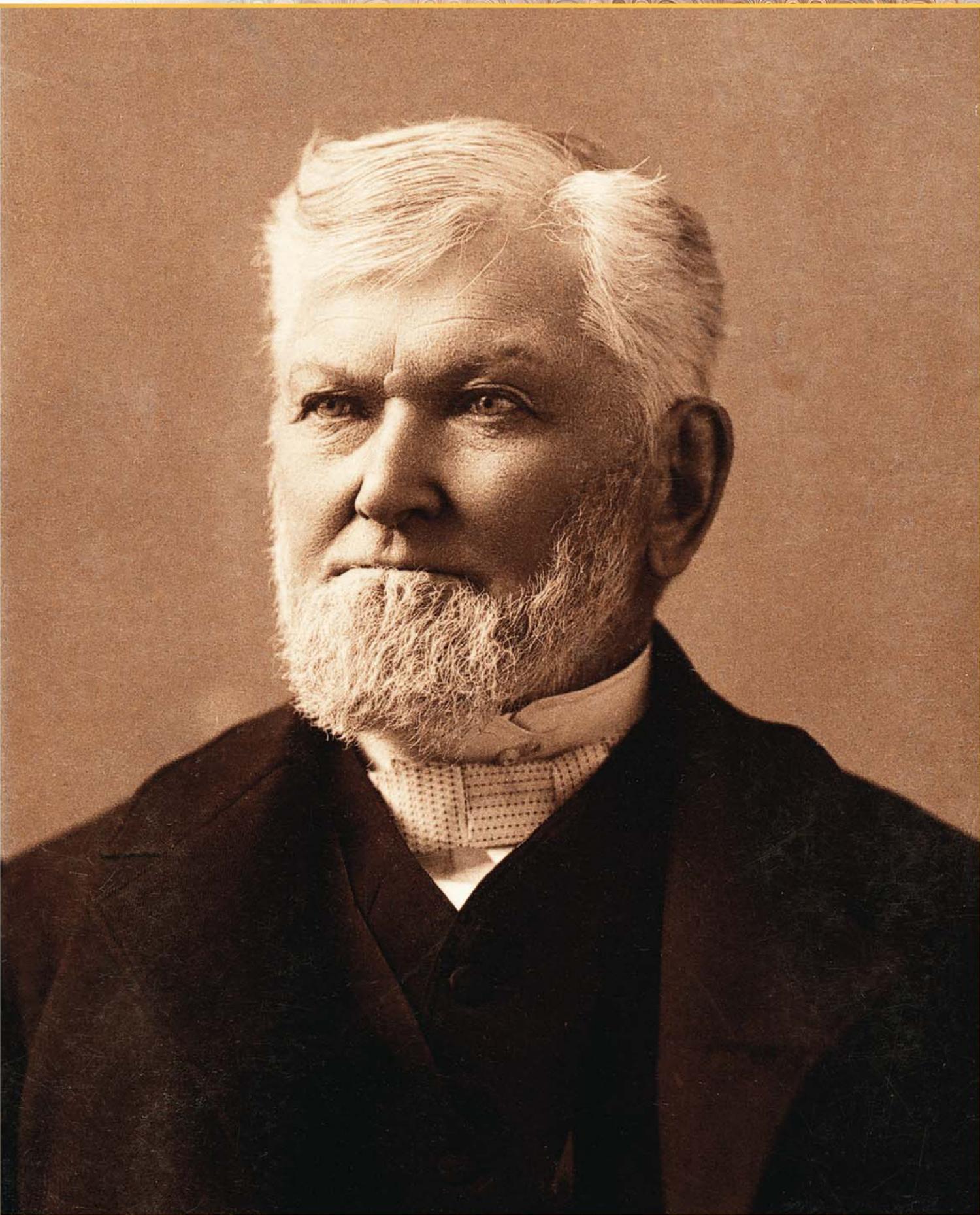
「友である皆さん、聖徒たちに『ひとたび伝えられた信仰』のために皆さんが闘わない理由を話していただけませんか。イエス・キリストがお教えになり、主の使徒が教えた福音の

ために闘わない理由を話していただけませんか。皆さんに神からの力、すなわち病人を癒し、目の見えない者を見えるようにし、足の不自由な者を歩けるようにする力を与え、聖霊と、世の創造以来明らかにされてきた賜物と恵みを与える宗教のために闘わないのはなぜですか。昔の族長や預言者が神の啓示に満たされていたときに教えた原則を教えないのはなぜですか。族長や預言者たちは天使の教えを受けていました。夢と示現と、歩むべき道にあって教え導く絶え間ない啓示を受けていました。」

集會の出席者は、まだ若い青年の口からこのような大胆な言葉が出たことに驚いたことでしょう。すぐさま、集會を管理していた聖職者が、ウィルフォード・ウッドラフの考えを見下して言いました。「愛する若者よ、もし君がそのような愚かな事柄を信じていなかったなら、君は非常に賢く、地上において非常に有用な人物となるだろう。それらの事柄が人の子らに与えられたのは世の暗黒時代のことであり……今日我々は栄えある福音の光の中で生きており、そのようなものは必要ない。」

この聖職者の言葉に納得がいかなかったウィルフォードは答えました。「それならわたしを世の暗黒時代に連れて行ってください。人々がこれらの原則を受け入れていた時代に連れて行ってください。」³

後に、26歳になったウィルフォード・ウッドラフは、小さな校舎で開かれたある集會で立ち上がり、話をしました。この度は、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であるゼラ・パ



「主イエス・キリストのほかに、御父の指示を受け、人を救って永遠の命を与える力を持つ御方はいません。」¹⁰

預言者ジョセフ・スミス「わたしは、これまで見てきたジョセフ兄弟の姿や行いに非常な喜びを感じてきました。なぜなら彼は公私にわたり全能者の御霊とともに歩み、どんな人物にも見たことのないような偉大な精神を表していたからです。」¹¹

「預言者ジョセフ・スミス以上に、御父なる神と御子なる神、聖霊なる神と一つとなって親しく交わった……人物がいたとは思いません。神権を受けるように召された日から殉教のときまで、啓示の力がジョセフとともにありました。また靈感の力が日々ともにありました。」¹²

神権「使徒や会長、監督、あるいは神権を持つだれかが職務を行うとき、その人は主イエス・キリストの権能によって働きます。そのときにその神権は効力を持ち、神の僕が人の子らに授けるすべての祝福は、この世においても来るべき世においても効力を持ちます。もしわたしに聖なる神権によって与えられた祝福があるならば、あるいはもし祝福師から祝福を受けているならば、その賜物と祝福は来世においても効力を持つでしょう。そしてもしこの世の生涯を通じて聖約に忠実であるならば、わたしは自分に授けられたすべての祝福を要求することができます。なぜなら祝福を受けた権能は神によって定められているものだからであり、この権能によっていと高き者の息子たちは人の子らに命と救いの儀式を執行し、それぞれの職における行いはこの世においてだけでなく、墓の向こうにおいても人々に対して効力を持つのです。これこそが真の富です。永遠にわたって存続する富であり、福音によって授けられたこれらの祝福を通じて、わたしたちは再び体を受けて、永遠にわたって自己を保つ力を得ているのです。そうです、わたしたちはこれを聖なる神権の効力によって要求することができるのです。」¹³



戒めを守る「地上に生を受け、神の戒めを守った男女で、神の前に行くときに恥じたり、悲しんだりする者はだれ一人としていないでしょう。」¹⁴

聖霊の賜物「さて、もし皆さんが聖霊を受けているならば——一人一人がそうあるべきですが——、わたしは皆さんに向かって次のように言うことができます。すなわち、地上で人に与えられるものの中で、それ以上に大いなる賜物はなく、それ以上に大いなる祝福も、それ以上に大いなる証もありません。皆さんは天使の働きを受け、多くの奇跡を目撃し、地上で多くの不思議を見るかもしれません。それでもわたしは断言します。聖霊の賜物こそが、



FIRST PRESIDENCY OF THE MORMON CHURCH
Taken on the 57th Birthday of President Willard Woodruff, 1894. S. C. SNARE, Photo Salt Lake.

左ページ——
ウィルフォード・ウッドラフの後ろは、彼の改宗に影響を与えた出来事(宗教に関する集会)と人物(後にウッドラフ大管長にバプテスマを施したゼラ・パルシファー)である。
左——ウィルフォード・ウッドラフの妻フィービー。
下——1894年当時の大管長会。ウッドラフ大管長(中央)、ジョージ・Q・キャンノン副管長(左)、ジョセフ・F・スミス副管長(右)。



人が授かることのできる最も大なる賜物なのです。この力によって、わたしたちはこれまでに成し遂げてきた事柄を行ってきました。そしてこれこそが、あらゆる迫害、試練、かんなん 艱難の中で支えてくれるものなのです。」¹⁵

「わたしは生涯を通じて、また業を推し進める中で、主の御霊から何かをするように告げられたときには、それを行うことが益となることを学んできました。わたしはその力によって守られてきました。……どうぞ啓示の霊を受けてください。啓示の霊を受けるときに皆さんは安全であり、主が望まれることをそのとおりに行うことになるでしょう。」¹⁶

家庭生活「わたしたちは皆、死後永遠にともに住むことを望んでいる。後悔することが何もないように、生きている間に、親や子供として、互いを幸福にするためならどんな苦労でもいとすべきではないと思う。」¹⁷

「家族の気持ちや愛情を勝ち得るためにはどのように行動すればよいかを知っているのは素晴らしいことであり、それは救いに至る道へと彼らを導くでしょう。これは両親が努力を注がなければならない課題であり、怠ってはならない業です。……わたしたちはとても急を要する用事があり、そのためにこれらの事柄が心から押しのけられてしまうのは仕方がないと考えることが多くありますが、そうであってはなりません。心が開かれている人、またわたしたちを待ち受けている業を待ち望む人はだれでも、自らの家族に関する責任、特に子供を育てることにおいて受けている責任が非常に大きいことを理解し、また感じるでしょう。」

わたしたちは子供たちを救いたいと思っており、きよ 聖められた者が享受するすべての祝福を受けさせ、また、完全な福音に忠実であった先祖の祝福を受けさせたいと思っています。」¹⁸

伝道の業「いつの時代にあっても人類は幸福を探し求めています。社会と家庭における平安を望んでいます。そして

次の世という広大な未来について思うとき、そこにあると言われている数々の祝福にあずかりたいと願うのです。しかし、神の僕がやって来て命の道を示さないかぎり、人類にはその祝福を得る方法が分かりません。」¹⁹

「わたしは生涯の大半をこの教会で過ごしました。教会に加わったときから伝道に行き、こんにち 今日に至るまで、働きをやめたことはありません。常に伝道に喜びを感じてきましたし、今でも感じています。死んでこの体が横たえられるときに、『ウッドラフは義務を怠った。わたしを救うために最善を尽くしてくれなかった』と、だれからも言われたいくないのです。わたしは福音を宣べ伝えることに常に喜びを感じてきました。自国や外国で命と救いの儀式を執行することに喜びを感じてきました。この業が神の業であることを知っていたからです。今でもそのことを知っています。」²⁰

神殿と家族歴史の業「金や銀が何でしょう。この世の富が何でしょう。すべて使えば消え去ります。世を去るときには、財産は後に残して行かなければなりません。しかしもし永遠の命を受けるならば、もし信仰を保って勝利を得るならば、幕の向こう側に行くときに喜びを得るでしょう。わたしはこのすべての事柄に喜びを感じます。主が明らかにしてくださった原則の中で、死者の贖いほどわたしに喜びを与えてくれた原則はまずありません。第一の復活の朝、日の栄えの王国において、わたしたちは父親、母親、妻、子供たちとともに、家族の輪の中にいることになるのです。これは壮大な原則です。あらゆる犠牲を払う価値のあるものです。」²¹

「わたしたちは末日聖徒に、今からできるかぎり系図をたどり、自分の父親や母親に結び固められてほしいと思います。子供たちを両親に結び固め、この鎖をできるかぎり長くつないでください。」²²

「この件について正しく考えられる末日聖徒ならだれでも、……無上の喜びで興奮を覚えるはずです。」²³

警告と奨励の言葉

教会の歴史を振り返り、その行く先に向かって教会が前進するのを見て、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう勧告しています。「わたしたちは、大なる回復の恩恵に浴しています。……低俗な人間になるわけにはいかないのです。わたしたちが手にしている素晴らしい受け継ぎに対して、もう少し固く立ち、もう少しふさわしい人になるべきです。」²⁴ 120年以上も前に、ウィルフォード・ウッドラフ大管長は末日聖徒に対して、これに似たチャレンジを与えています。ウッドラフ大管長の勧告と励ましの言葉は、まさに今日のわたしたち

にも当てはまるものです。

「大いなる末日の業に携わるように召されているわたしたちは、どのような男性や女性であるべきでしょうか。信仰の人であって、これまでに明らかにされ、わたしたちの手にゆだねられてきた真理に雄々しくあるべきです。神と神の聖なる神権に対して誠実であって、神と人に対して忠実であるべきです。わたしたちは大いなる目的を成し遂げるために神から遣わされているのであり、家や土地、金や銀、あるいはこの世のいかなる品々にも、わたしたちが業に従事するのを妨げさせてはいけません。わたしたちの目指すもの、わたしたちの行く先は高く、わたしたちは天の御父や、見守ってくれている天の衆群を決して落胆させてはいけません。またわたしたちの心に思い浮かびもしなかったような関心と切なる願いを抱きながら同じように見守ってくれている、霊界にいる無数の人々を落胆させてはいけません。末日の業に携わるのは、神が求めておられる、偉大で力ある事柄です。もし何かがわたしたちを真理から、あるいは真理に対する愛から離れさせることがあれば、わたしたちは救いにふさわしくなく、神の王国で永遠に住むのにふさわしくない者となるでしょう。」²⁵ ■

アロン・L・ウェストは、ユタ州ケイズビル中央ステーキ、ケイズビル第2ワードの会員です。

注

1. “Recurring Themes of President Hinckley,” *Ensign*, 2000年6月号, 21
2. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』(2004年), xixで引用
3. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』36-37で引用; 35も参照
4. *Millennial Star*, 1891年10月5日付, 627; 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』xix-xx, 37-38も参照
5. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』35で引用
6. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』109, 153, 162, 218参照
7. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』10

8. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』8
9. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』69-70
10. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』74
11. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』14-15
12. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』16
13. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』42-43
14. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』213
15. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』49
16. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』52
17. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』163で引用
18. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』167-168
19. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』92
20. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』95
21. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』193
22. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』174
23. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』175
24. “Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley,” *Ensign*, 1999年3月号, 72
25. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』43-44

ウィルフォード・ウッドラフ大管長(左)は、1892年4月の総大会(下)のときに、ソルトレーク神殿の笠石の設置を指揮した。1年後の1893年4月に、ウッドラフ大管長はソルトレーク神殿を奉献した。



主の奇しき御業

厳粛に ♩ = 58-69

Descant Ah, ah.

1. 主のくくしもきみみゆるさ
 2. 主のろくとがきみはひみゆちとわるかにざもしはさゆめ
 3. 主のろのとがきみはひみゆちとわるかにざもしはさゆめ
 4. 主のろのとがきみはひみゆちとわるかにざもしはさゆめ

Ah,

とうりがたしよあれくうるうなみ
 うききをはえまよつはながてがしゆしにくくふくえ
 ぐみてみはまえぬぬめがしにさにかまくさ
 しあまえぬぬめがしにさにかまくさ

ah.

ものききしがたそがう
 のあい主めまははそほぐ
 のる主めまははそほぐ

詞：ウィリアム・カウバ (1731-1800)
 曲：ウィリアム・B・ブラッドベリー (1816-1868)
 デスカント：ラルフ・B・ウッドワード (1944-)

詩篇107：23-31
 ローマ8：28

教会あるいは家庭における一時的また非常利目的の使用に限り、複製することを許可する。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長の愛唱歌

扶助協会の目的



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うよう勧めてください。

扶助協会が存在する目的は何でしょうか。

扶助協会に所属する祝福——「扶助協会は、神権の指導の下に機能する、教会の姉妹のための主の組織です。扶助協会の目的は、教会の使命を達成しようとする神権指導者を支えることです。そのためには、姉妹や家族がキリストのもとへ来られるように助けなければなりません。扶助協会は、姉妹たちとその家族が、欠かすことのできない神権の儀式をすべて受け、儀式に付随する聖約を守り、昇栄と永遠の命にふさわしくなるように助けるのです。

扶助協会の目的を達成するうえで、以下の事柄が役立ちます。

1. 主イエス・キリストを信じる信仰を築き、神の王国の教義を教える。
2. 一人一人の姉妹に神聖な価値があることを強調する。
3. 慈愛を実践し、助けの必要な人を養う。
4. 家族を強め、守る。
5. 一人一人の姉妹に仕え、支えとなる。
6. 姉妹たちが神権の祝福を余すところなく享受できるようにする。

大管長 ジョセフ・F・スミス (1838-1918年)——「この組織は女性と男性に救いをもたらすために、神によって作られ、神によって承認され、神によって組織され、神によって聖任されました。……〔扶助協会を〕最も優れた、最も重要な組織とし、この世に存在するどのような組織よりも優れた深みのある組織としてください。あなたがたは神の預言者の声によって、それを行い、最も優れた、最も偉大で、善良で、また最も清く、義に献身する者となるよう召されています。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』184)

中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン——「わたしたちには一つの組織が与えられています。この組織の目的は、主イエス・キリストを信じる信仰を築くこと、主の愛を感じることに、その愛の輪をすべての人に広げることです。その組織こそ、扶助協会なのです。」(“Transforming Transitions,” *The Rock of Our Redeemer: Talks from the 2002 BYU Women’s Conference* [2003年], 45)

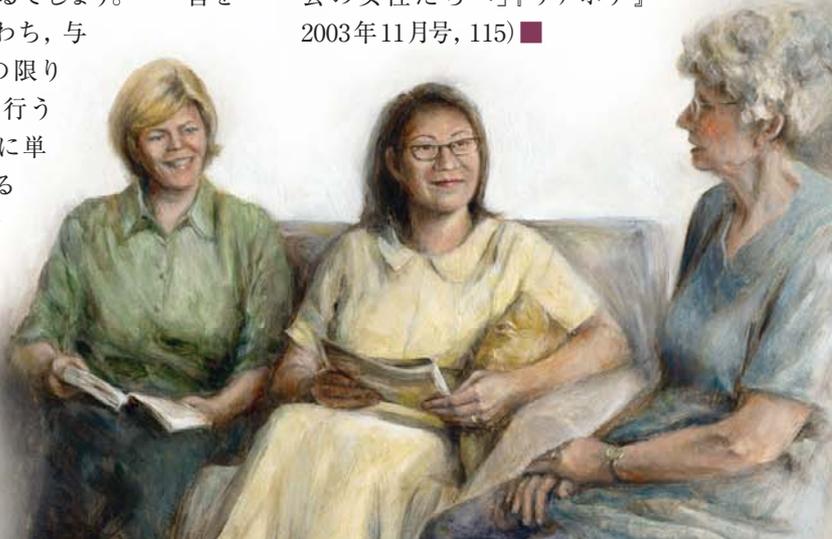
中央扶助協会会長 エライザ・R・スノー (1804-1887年)——「女性扶助協会の目的は何でしょう。わたしならこう答えるでしょう。——善を行うこと、すなわち、与えられた能力の限りを尽くして善を行うこと、貧しい人に単に養いを与えるだけでなく、そ

の魂をも救うこと。力を合わせるなら、非常に優れた人が独りで精いっぱい努力して達成できることよりも、はるかに偉大なことを成し遂げられるでしょう。」(“Female Relief Society,” *Deseret Evening News*, 1868年4月18日付, 2)

扶助協会に所属することによって、どのような祝福が得られるでしょうか。

中央扶助協会第二副会長 アン・C・ビングリー——「扶助協会の姉妹たちが『神の栄光にひたすら目を向け』るとき(教義と聖約4:5)、霊的な悟りを豊かに得て、奥深い霊的な力をともに分かち合える〔のです〕。……扶助協会に属する聖約の女性たちが築ききらずなは、確かにわたしたちの人生の旅路を明るくし、活気づけ、豊かにしてくれます。なぜなら、わたしたちの心や生活の中で主を第一にする方法を学べるように助け合うことができるからです。」「主の愛の光に向かって歩む」『リアホナ』2004年11月号, 112-113)

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「扶助協会の愛する友人の皆さん、皆さんがどのような環境にあっても、どこに住んでいても、天の窓が開かれ、皆さんのうえに祝福が注がれますように。愛し合う気持ちを胸に抱きながら生活できますように。大きな重荷を背負っている人々を力づけるために手を差し伸べられますように。世の中に……光と美をもたらすことができますように。」「教会の女性たちへ」『リアホナ』2003年11月号, 115) ■



姉妹たちの 楽しい集まり

扶助協会の「家庭・家族・個人を豊かにする集会」は、
世界中の姉妹たちの心と家庭が愛と慈愛で満たされるのに役立っています。

中央扶助協会管理会
リアン・デロング

ウ クライナのルーチクで16人の姉妹たちが小さな台所に集って、クッキーやケーキを作っています。台所はオープンで暖まっています。オープンが床の上に置いてあり、姉妹たちはその近くに座って、オープンの暖かさだけでなく、ともに集う温かさも感じています。これは彼女たちが「姉妹たちの夕べ」と呼んでいる楽しい集まりですが、皆さんには「家庭・家族・個人を豊かにする集会」

と言った方がよく分かるでしょう。

この集会では、みんなが笑い、抱き締め合い、踊ったりもします。そして賛美歌をともに歌い、教会の賛美歌に対する愛を示しています。遠くから来ている姉妹たちはバスに3時間揺られて家に帰りますが、その間も賛美歌を歌います。

何と素晴らしい「家庭・家族・個人を豊かにする集会」でしょう。ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の言葉がそのまま実践されています。つまり、扶助協会は学びの場、人に仕える場、互いに交わる場であるという教えです。¹

また中央扶助協会会長のボニー・D・パーキン姉妹は「家庭・家族・個人を豊かにする集会」を「安全で、くつろいだ、魅力のある環境で心も手も結ばれる」場所と表現していますが、そのとおりになっていることがうかがえます。

パーキン姉妹はこのように説明しています。「霊的な力を築き、個人の技術を伸ばし、家庭と家族を強め、奉仕を通して慈愛を実践する活動に参加することで、あらゆる年齢そして人生のあらゆる段階の姉妹たちが帰属感を抱くことができます。姉妹たちはこのような集会でささなを強め、新しい会員や教会から足が遠のいている会員の友人になり、伝道の機会も数多くあるのです。」

学 び

「家庭・家族・個人を豊かにする集会」は融通の利く集会です。そのおかげで、姉妹たちは状況や年齢





にかかわらず、ともに分かち合い、学ぶことができます。

ナイジェリア南東部の熱帯雨林では、色鮮やかな服を着て頭を布で覆った若い女性と扶助協会の姉妹たちが質素な教会堂の外に集い、ブラウスやワンピースの型紙の作り方を学びます。空になったセメントの袋を製図用紙の代わりにして、扶助協会の姉妹たちはテーブルの周りに集まり、この新しい技術を教えてくれる若い女性たちから熱心に学ぼうとしています。型紙を起こし、生地を切り、順番に足踏みミシンを使って服を仕上げています。

奉 仕

アラスカ州ジュノーステーク、ジュノー第2ワードの姉妹たちは互いに遠く離れて住んでいるにもかかわらず、一体感を感じています。月の第1日曜日、扶助協会会長会のサンディー・パーキンス姉妹はこう質問します。「どうすれば地域社会に福音の光を届けることができるでしょうか。」パーキンス姉妹はその月の豊かにする集会について説明し、自らの問いに答えています。扶助協会会長会は、その地域の奉仕や慈善事業を代表する地元の指導者を数人招待し、何が必要であるかを姉妹たちに話してもらいました。パーキンス姉妹はこのように説明しています。「光を届けようとして働きかけることで、自分たちの町であるこの地で、わたしたちの影響が大きくなるよう願っています。」



互いの交わり

地元の扶助協会の姉妹たちとその地を訪問している姉妹たちがそれぞれ帰属感を養うには、互いに交わり、姉妹としてのきずなをはぐくむ必要があります。その絶好の場となるのが「家庭・家族・個人を豊かにする集会」です。旅行者の出入りが激しいリゾート地であるスペインのベニドルムで開かれる豊かにする集会は、その良い例です。ある晩、豊かにする集会に、エクアドルやペルー、コロンビア、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イギリス、スコットランドから来ている姉妹たちがスペインの姉妹たちとともに集いました。この夜はスイスから来た姉妹が、用途の広いグリーティングカードの作り方を教えました。簡単なデザインので、習いながら姉妹たちは語り合い、友情を深めることができます。

一緒に何かをすることで、やがて言葉の壁を越えて親しみやすさや誠実さを感じられるようになります。福音を学んでいる人が姉妹宣教師と来ても、楽しげにほかの参加者とおしゃべりをします。このような人々が日曜日に再びこの小さな支部を訪ねると、すでに仲間の一員であると感じられるのです。

左——ウクライナ、ルーテクで「家庭・家族・個人を豊かにする集会」にともに集うことの温かさを感じる姉妹たち。
上——ナイジェリアで、ブラウスやワンピースの型紙の作り方を学ぶために集う姉妹たち。



簡単な活動ですが、この豊かにする集会は、学び、奉仕をし、互いに交わるといふ目的を果たしています。「行く必要なんかないわ。グリーティングカードなら幾らでも持っているのだから」と思った姉妹たちもいたかもしれませんが。しかしグリーティングカードは、その夜の豊かにする集会から得られる恩恵のほんの一つにすぎません。何かを得るために出席することもあります、人に何かを与えるために出席することもあるのです。話を聞いたり、励ましの言葉をかけたり、友達として歓迎したりするだけでよいのです。



扶助協会に来る

現代社会において仕事を持つ女性が増えています。また、ひとりで子供を育てているために時間が限られている、聖徒たちと交わるには遠くまで行かなくてはならない、集会の場に行き参加するには経済的に負担を感じるなどの問題を抱える姉妹たちもいます。中には豊かにする集会に出席すること自体が難しい人もいます。ひとりで7人の子供を育てるかたわら、忙しく全日制の学生として勉強する女性に、豊かにする集会にどうして出席しようと思ったのかと尋ねると、このように答えが返ってきました。「家族が祝福を受けるという約束をどうしても受けたいのです。」

この約束をわたしたちはすでに受けています。パーキン姉妹はこのように述べています。「扶助協会に集ってください。扶助協会は皆さんの家庭を愛と慈愛で満たし、皆さんと家族を養い、強めることですよ。」²

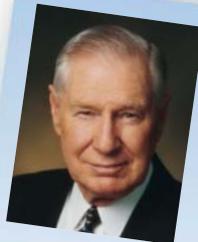
伝道中のマリア・ヤスミン・ファン(中央)



すべての女性が招かれているように、皆さんも招かれているのです。

フィリピン、マニラに住むマリア・ヤスミン・ファンは家族と離れて暮らしています。彼女も扶助協会に来ることを選んだ一人で、このように述べています。「わたしはとても寂しくて、母を恋しく思っていました。でも扶助協会に行けばなんとかなると分かっていました。豊かにする集会で歓迎されたとき、部屋にいる姉妹たちはみんな『お母さん』なのだと気づきました。」

扶助協会は、喜びも悲しみも分かち合える安全な場所、訪問や笑い声が友情のきずなを豊かにする場所、訪問者が歓迎



変わることはない概念

「わたしは以下の4つこそが扶助協会の変わることはない概念であると信じています。第1、神により設立された女性の団体であること。第2、学びの場であること。第3、人に仕えることを憲章とした組織であること。そのモットーは『愛はいつまでも絶えることがない』です。第4、女性が互いに交わり永遠の友情を築くことのできる場であること。」

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
「天から遣わされている者」
『リアホナ』2002年11月号、111参照

される温かい場所なのです。女性のためにある主の組織に来て、仲間になってください。ウクライナの小さな台所のオープンのように、「家庭・家族・個人を豊かにする集会」は皆さんの心と家庭を温めてくれるでしょう。■

リアン・デロングはユタ州サウスウイーパーズテーク、サウスウイーパー第1ワードの会員です。

注

1. 「天から遣わされている者」『リアホナ』2002年11月号、111参照
2. 「扶助協会は、皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか」『リアホナ』2004年11月号、35



みんなを仲間に

あなたは今までに仲間はずれにされていると感じたことがありますか。または、周囲とうまくなじめずに、仲間はずれにされた人を知っていますか。学校、教会、その他どのような状況であれ、多くの人は生涯でそのように感じた経験があることでしょう。

ここに挙げられているのは、仲間はずれにされているという気持ちをうまく処理するとともに、人々を助けて彼らが歓迎されていると感じられるようにするためのアイデアです。スウェーデン・ストックホルム南ステーク、ハンデンワードの青少年が考えました。

仲間になったと感じる

* 周り合わせようとして自分の標準を下げるのは価値がないことです。そのことをいつも心に留めましょう。

* 仲間はずれにされるのは傷つくことですが、怒ったり、恨みを抱き続けたりするのはやめましょう。余計に嫌な気持ちになるからです。

* 自分をもっと善い人になりたいと思わせてくれて、福音に従った生活をするよう励ましてくれる、一緒にいて良い気持ちを感じられる人というようにしましょう。

* 自分を向上させ、新しい技術を学んでください。学校のクラブに入ったり、スポーツを習ったりするのは、同じような興味を持つ人たちと出会える良い方法です。

* 教会の青少年の活動に行き、積極的に参加しましょう。

* 家族と一緒にいるようにしてください。家庭でも親友を見つけることができます。

* 自分がなれる最高の人になってください。そうすれば、

あなたの良さを正しく評価してくれる友達を見つけることができます。

* だれかが「友達になって」と頼んでくるのをひたすら待っているのははやめましょう。出て行って、自分から友達になってください。

周りの人を仲間に

* 学校や教会で、転校生や転入者に声をかける努力をしましょう。その人たちと同じ趣味を持つ友達を、その人たちに紹介してください。

* 友達が必要だと思われる人がいたら、学校や教会の活動に誘ってみましょう。

* 故意に周りの人に嫌な思いをさせる人たちに、敢然と立ち向かいましょう。周りの人を仲間に入れ、その人を愛する者として模範になってください。

* 独りで座っている人の隣に座ったり、あなたや友達と一緒に座るように誘ったりしましょう。元気かどうか尋ねてください。

* ある人を助ける方法がよく分からないときは、祈ってください。天の御父はその人に何が必要かを御存じで、その人を助けようとするあなたを助けてくださいます。あなたが何をすべきか教え、また何をすべきでないか警告してくれる御霊の促しに敏感になってください。

* ダンスに行ったら、その晩まだ踊っていない人を見つけて一緒に踊ってくれるよう声をかけてください。

* 社交的になって周りの人を助けるのは難しいときもありますが、とにかくやってみましょう。■

わたしの 人生を変えた レッスン

あなたの生活に祝福をもたらしたレッスンを教えてくださいという呼びかけに、世界中の教会員がこたえてくれました。ここに紹介するのはそのうちのほんの一部です。これらの実体験を通して、皆さんが鼓舞され、これまでに受けてきたレッスンを思い起こし、教師としての責任をよりよく果たせるように願っています。

れんが

結婚後間もないころ、わたしたちは夫の学業のために引越しをしました。新しいワードで、わたしはある女性と密接に働くことになりましたが、とてもぞんざいで無神経な人でした。わたしは慰めを求めて夫に不満を漏らし、そのような女性がワードの指導的な立場にいることについての悲しみを伝えました。夫は期待どおりの慰めの言葉をかけてくれる代わりに、愛と寛容さについてさりげなく、しかしとても価値のあるレッスンをしてくれました。

夫はこう言いました。「教会では皆が神の王国を建設するために協力している。会員一人一人はれんがのようなものだが、れんがのどれも完全じゃない。じっくり観察すると、こっちに傷があったり、あっちにこぶがあったり、どれにも不具合が見つかるものさ。ほかのれんがと組み合わせても、ぴったり合うことはほとんどなく、ほかの人と自分自身の不完全さが重なると、いつも隙間ができて不安定になる。愛や寛容さ、忍耐、赦しといった『しっくい』がないと、王国建設の努力は無に帰するんだ。」

家族が大きくなり、王国の建設を助ける経験が豊富になるにつれ、この簡潔な教えを度々思い起こします。そして、周囲の人たちと接するとき、もっと慈愛を持つという、わたしに課せられた責任を思い起こします。わたし自身の短所を振り返るにつれ、寛容さという「しっくい」をもってわたしと接

してくださる人たちに対する感謝の気持ちが増します。

ワシントン州モーゼスレークステーク、モーゼスレーク第10ワード
リー・アン・フェアバンクス

「この人は真理を知っている」

わたしが初めて日曜日を教会で過ごしたのは1995年の初めてでした。それまで週末はスタジアムとジムに通っていました。スポーツが大好きなのです。そのうえ、スポーツについての勉強もしていました。しかし、1995年1月、末日聖徒イエス・キリスト教会に出会いました。姉妹宣教師が教会に招待してくれたので、行ってみることにしたのです。

その日は断食証会あかしかいでした。わたしは木製の大きな長いすに腰かけました。両わきには姉妹宣教師が座ってくれました。しかしそこは、なじみのない顔、なじみのない音楽、なじみのない集会、なじみのない言葉ばかりです。それまで聖餐せいさんを取ったことはなく、その場にそぐわないことをしないようにするのに精いっぱい、とても違和感がありました。「いつか終わるだろうから、そのときに外に出て、二度と戻って来ないことにしよう」と自分に言い聞かせていました。しかし、集会の終わりに、皆が礼拝堂に残るようにとの発表がありました。チャールズ・W・ダールクイスト・ジュニア伝道部長のレッスンを聞くためです。現在、彼は中央若い男性会長です。姉妹

宣教師たちも含め、多くの人がある場に居残ったため、計画していたようにこっそり抜け出すことができませんでした。自分がどれほど惨めに感じているかを宣教師に伝える勇気もなく、辛抱することになりました。

ダークキリスト伝道部長が前に立ち、こう質問しました。「皆さんは、読んでみて気に入った本があったらどうしますか。」わたしの答えはこうでした。「もう一度読み返し、ほかの人にも勧めてプレゼントする。」

ダークキリスト伝道部長はモルモン書について語り、それから幾つかのことについて話しましたが、不思議なことが起きました。彼の言っているすべてが真理だと、突如として分かったのです。それだけでなく、この人は真理につ

いてもっと多くのことを知っている人だと感じました。そして、「この人が知っていることをわたしも知りたい。この人が人生のよりどころとしているものをわたしも得たい」と思うようになりました。この経験を言葉で説明するのは難しいのですが、とにかく、「この人は真理を知っている」と確信したのです。

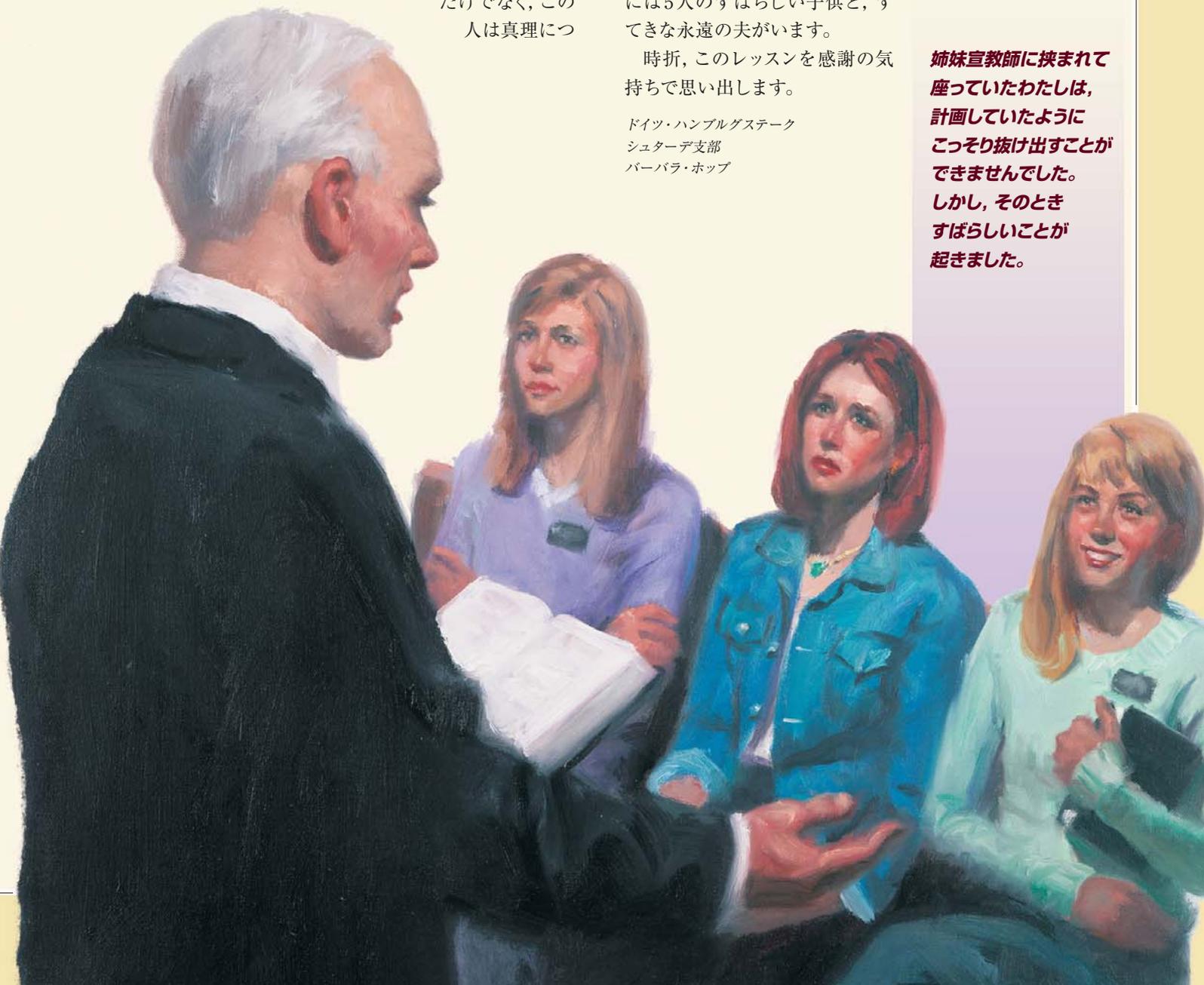
わたしは気づかれぬように辺りを見回し、異変に気づいた人があるかどうか確認してみました。なぜなら、わたしはとてすばらしいことがその場で起きていると感じていたからです。

ダークキリスト伝道部長のレッスンのおかげで、わたしはその後何度も教会に集いました。そしてこの経験から1年ほどたった1996年3月2日、バプテスマを受けました。今、わたしには5人のすばらしい子供と、すてきな永遠の夫がいます。

時折、このレッスンを感謝の気持ちで思い出します。

ドイツ・ハンブルグステーク
シュターデ支部
バーバラ・ホップ

姉妹宣教師に挟まれて座っていたわたしは、計画していたようにこっそり抜け出すことができませんでした。しかし、そのときすばらしいことが起きました。





**わたしが5歳のとき、
初等協会の教師が、
神はわたしの
天の御父であられ、
イエス・キリストは
わたしの救い主、
贖い主であられることを
教えてくださいました。**

神会についての証^{あかし}

わたしの人生に最も影響を与えたレッスンは初等協会でのものです。随分前のことなので、教師の名前は忘れてしまいました。しかし、そのレッスンはわたしの心の奥底までしみわたり、決して忘れることのできないものとなりました。

わたしが5歳のときのことで。神はわたしの天の御父であられ、

イエス・キリストがわたしの救い主、贖い主^{あがな}であられることを学びました。そして、御二方はすべての人を愛しておられ、必要なときにいつでも神と話をすることができると教えてくださいました。いつもわたしの祈りに耳を傾けてくださっているからです。わたしの信仰は増し、心の中の何かが大きくはぐくまれました。そして、少

しずつ神会についての証が芽生えていきました。幼い子供の純粋な気持ちから、さらに熱心に祈るようになりました。そして、祈りによってたくさんのすばらしい経験をしてきました。

教会には1年以上集いましたが、いろいろな都合により、教会に行くのが困難になりました。しかし、それでも祈ることはやめませんでした。

20歳になったとき、わたしはようやく教会員になることができました。御父に「あなたのみもとへ帰ります」と話しかける幼子^{おきなご}の清い心をもってバプテスマを受けました。

幼いころに種がまかれ、大人になって芽が出たのです。あの教師がどれほどわたしにとって助けになったかを、先生自身が知っているかどうかは分かりません。しかし、あのレッスンはわたしの魂を形成し、14年もの間教会と接触がなかったときにも、わたしが確かな道に立ち続けていられるように助けられました。

ブラジル・ブライアグランデステーク、ブライアグランデワード
エステラ・サンタナ・レイタオ・キャバルカンテ

罪という汚れ

15年以上前に、わたしがまだローレルの年代だったとき、ステーキ若い女性会長はわたしやほかの女の子たちのあこがれでした。彼女のカールした美しい茶色の髪は息を飲むほどで、さらに頭の回転も速く、弁舌もさわやか、しかも霊的な女性で帰還宣教師、そして新婚です。衣服は慎み深く、標準を下げなくとも魅力的でいられることの模範でした。わたしが将来に対して抱いていた、すべての夢の象徴だったことを覚えています。

ある若い女性のファイヤサイドで彼女が話をすることになっていました。わたしたちが礼拝堂に入ると、彼女の豪華な白いウェディングドレスが目につく場所に飾られていました。夢見る16歳にとって、ウェディングドレスよりも心躍るものがあるでしょうか。ファイヤサイドでは、きっと男の子たちについてや明るい未来について話してくれるだろうと想像しました。

しかし、若い女性会長である彼女の話が始まると、わたしの想像していたことは彼女の目的ではないことが分かりました。彼女は貞潔と、道徳的清さを保つことの大切さについて話し始めたのです。彼女はペンとノートを持って説教壇に立ち、これらのきわめて重大な事柄について気持ちを込めて話しました。

突然、想像もしていなかったことが起きました。ジュエチャーを交えての話の中で、彼女の万年筆のインクが飛んでウェディングドレスの白い生地に大きな染みを作ってしまったのです。わたしたちは大きなショックを受けました。

その後、彼女が何を話したのかを正確には覚えていません。白いドレスのように清く、純潔であることや、どんなに小さくとも、性的な背きはそのドレスに染みを作ったインクのようにわたしたちを汚すものだという話でした。わたしは、何があっても清く純潔でありたいと思いました。これは無意識のうちにそれ以前から決意していたことでした。しかしそのとき、この決意はわたしの心にしっかりと刻み込まれたのです。

清さを保つこと、そして、汚れから清くなることについて話した後、彼女は種明かしをしてくれました。そのインクがアイデア商品を扱う店で買った「消えるインク」で、数分すれば消えてしまうものだという事です。でも、一度も試したことがないとのことでした。わたしたちはほんとうにインクが消えてほしいと願い、そのとおりにになりました。

この実物を使ったレッスンは、あの日からわたしの心の中で特別なものとなっています。あの白いドレスと同じように純潔なまま、天の御父の前に立ちたいと思います。

スウェーデン・エーテボリスステーク、ボロースワード
アニャ・クラリン

贖いの力と贖いの霊

わたしは永遠の父なる神とその御子イエス・キリストを信じていました。若いときから、御二方に近くありたいと望んでいましたが、どうすればよいのか分かりませんでした。

2000年5月、わたしは初めて末日聖徒イエス・キリスト教会と出会いました。宣教師に会ったとき、わたしはまだ17歳になったばかりでした。彼らの訪問を受けた友人から、話を聞いてみるように勧められたのです。彼らの伝える福音のメッセージに耳を傾け、聖餐会に参加した後、友人とわたしは、わたしの両親と弟とともにバプテスマを受けました。

ワードの皆さんはすぐにわたしたちを受け入れてくれました。わたしは若い女性でしたが、とても楽しく、わたしが霊的に成長できるように助けてくれた若い女性会長のマリア・ホセ姉妹が大好きでした。若い女性プログラムを修了するころ、マリア・ホセ姉妹はわたしの日曜学校の教師に召されました。

ある日曜日、翌週のレッスンはイエス・キリストの贖いの犠牲なので、ジェームズ・E・タルメージ長老の『キリスト・イエス』を持って来るようにと彼女が言いました。

次の日曜日、わたしたちは本を片手に座りま

した。全員が、本の中の指定された部分を勉強してクラスで発表するように割り当てを受けていました。ホセ姉妹は、どの聖句を読んでどう発表するかを教えてくださいました。そしてわたしたちに御霊の崇高な力が注がれました。ゲツセマネの園とカルバリの丘について話しているときに、だれもが涙を流しました。それまでの福音のクラスの中で、最もすばらしい経験でした。これほど深遠な思いで贖いの力と贖いの霊について理解したことはありませんでした。

クラスの閉会に当たり、賛美歌を歌って簡潔な祈りをしました。わたしたちは強く心を打たれていました。贖いと救いの計画に感謝しています。ホセ姉妹がわたしたちを愛し関心を示してくれたことに特に感謝しています。彼女はわたしたちに、聖霊が福音と贖いについて証をされるのを感じてほしいと願っていたのです。■

**ホセ姉妹は、
どの聖句を読んで
どう発表するかを
教えてくださいました。
そしてわたしたちに
御霊の崇高な力が
注がれました。**

ブラジル・ナタル・ポテギステーク
バナティスワード
イレイン・クリスティーナ・ファリアス・デ・オリベイラ



神会

の特質

回復された福音の
基本的信条,
末日聖徒
イエス・キリスト教会
特有の教義を説明する
シリーズの第1回

十 二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は言いました。「末日聖徒イエス・キリスト教会の教えには、ほかのキリスト教会の教えと共通したものが数多くあります。しかし違いもあります。わたしたちがほかのクリスチャンに向けて宣教師を派遣したり、教会堂以外に神殿を建てたりする理由は、その違いの中にあります。また、わたしたちの信仰が、人生の数々の問題や死に立ち向かう力や大きな喜びをもたらしてくれる理由も、この違いの中にあります。」¹

別個の御三方

オークス長老はこう続けています。「ほかのクリスチャンの方々と同じように、わたしたちも神会を構成する御父と御子



と聖霊を信じています。しかし、わたしたちは、神会の御三方はそれぞれに独立した別個の御方であると証^{あかし}しています。また、父なる神は単なる霊ではなくて、復活された御子イエス・キリストと同じように、触れることのできる体を持つ、栄光を受けられた御方です。……これとは対照的に、多くのクリスチャンは、触れることのできる体をお持ちの神、人格をお持ちの神、別個の御三

方から成る神会という概念を否定しています。神は霊であり、3つの位格を持つ唯一の存在であられると信じているのです。わたしたちは、そのような教えはいわゆる『大背教』が起きた証拠であると考えています。²

新約時代の救い主の使徒が亡くなると、間もなく、ギリシャ哲学の影響によって、分かりやすくて貴い福音の真理がゆがめられていきました。神性に関する教義上の論争が起こったため、皇帝コンスタンティヌスは紀元325年、ニケーアで全教会の会議を召集しました。そのとき採択されたニケーア信条では、イエス・キリストは「御父と一体」であるとの宣言がな

され、神会の御三方は別々に存在されるという概念は排除されたのです。

オークス長老は次のように説明しています。「この後も教会の公会議が幾度も開かれ、そこでの決議と聖職者や哲学者の書物を基に、ギリシャ哲学とキリスト教の教義が結合しました。……その影響は3つの位格を持つ唯一の神……と定義する様々なキリスト教の教義の中に今も存続しています。」³

聖なる真理の回復

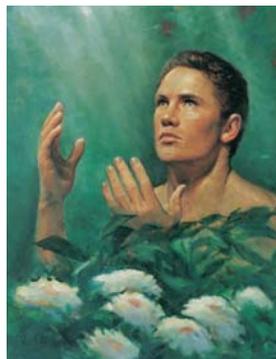
神会の特質に関する真理が回復されたのは、1820年の春、ジョセフ・スミスが聖なる森に入ったときのことでした。ジョセフ・スミスが祈っていると、ジョセフが「太陽の輝きにも勝[る]」と表現した光の柱が現れました。ジョセフはこう記しています。「その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス—歴史1：16-17) ジョセフはこの示現を通して幾つかの真理を学びましたが、とりわけ、父なる神とその御子イエス・キリストが栄光に満ちた別個の存在であられること、また聖書が教えるとおり、人は「神のかたちに」創造された者であることを知りました(創世1：27)。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は言っています。「ジョセフ・スミスが1820年の春に森で短時間に経験したことは、神とその愛する御子の性質と実在と本質について、人類が何世紀にもわたって憶測してきたことよりも多くの光と知識、理解をもたらしました。」⁴

1843年、ジョセフ・スミスは、神会について、直接受けた啓示を通して学んだことを簡単にまとめました。「御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。しかし、聖霊は骨肉の体を持たず、霊の御方であられる。もしそうでなければ、聖霊はわたしたちの内にとどまり得ない。」(教義と聖約130：22)

人の特質

わたしたちは、神が栄光に満ちた骨肉の体を有しておられることを知っています。しかし、神の特質について回復されたこの知識から、人の特質と可能性について、末日聖徒は独特の信条を持つに至りました。預言者ジョセフ・スミスは



聖書が
教えるとおり、
わたしたちは
アダムのように
「神のかたちに」
創造されたのです。

かつて次のように教えました。「神の特質を知ること、……そして、神もかつてはわたしたちと同じような人間であられたことを確実に理解すること、それが福音の第一の原則です。……はしごを登るときは、いちばん下から始めて、1段1段登って行かなければなりません。福音の原則もこれと同じです。最初から始め、昇栄にかかわるすべての原則をすべ

て学び終えるまで、続けていかなければなりません。しかし、あなたは幕のかなたに行っても長い時間をかけて学び続けるでしょう。」⁵

ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は次のように教えました。「永遠の父なる神は……救い主であるイエス・キリストの文字どおりの親であり、また人類の霊の親なのです。……わたしたちは神の子供[なのです。]」⁶

オークス長老は、永遠の御父にかたどって創造されていると信じているからといって、「わたしたちが神を完全に理解できるほどの霊的成長を遂げていると主張してはなりません」と述べています。「また、わたしたちの不完全な肉体と、栄光に包まれた不死不滅の御方の体を同一視しているわけでもありません。しかしわたしたちは、神が御自身と神会の別の御二方について啓示された基本的な教えを理解することはできます。そしてこの知識は、人生の目的と、現世の後に復活体をもって迎えることになる永遠の行く末を理解するうえで不可欠のものです。

回復されたイエス・キリストの教会の神学では、現世の生涯の目的は、神の息子、娘として、神のようになるという永遠の目標に到達する備えをなすことにあります。」⁷ ■

注

1. 「背教と回復」『聖徒の道』1995年7月号, 90
2. 『聖徒の道』1995年7月号, 90 参照
3. 『聖徒の道』1995年7月号, 90
4. 『聖徒の道』1995年7月号, 91
5. *History of the Church*, 第6巻, 305-307
6. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』354-355参照
7. 『聖徒の道』1995年7月号, 92参照



選択の自由を 賢明に使う

七十人

ドナルド・L・ホールストロム

道 徳的な選択の自由とは、自分自身のために物事を選ぶ能力を意味します。選択の自由は、御父の偉大な幸福の計画において根底を成すものです。そのため、主はアダムにこう言われました。「そして、善悪を知ることが〔あなたの子供たち〕に許される。それゆえ、彼らは自ら選択し行動する者である。」(モーセ6:56)

徳的な選択の自由を正しく使うならば、障害を克服し、神性をはぐくみ、「神のあらゆる賜物の中で最も大なるもの」である永遠の命にふさわしくなることができます(教義と聖約14:7)。ヤコブはこう語りました。「あなたがたは、自分の思うとおりに行動すること、すなわち永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由であることを覚えておきなさい。」(2ニーファイ10:23)

とても単純なことのように思えます。なのに、必ずしもいつも正しい判断を下せないのはなぜでしょうか。一つの理由は、行動の結果がすぐに現れるわけではないからです。これは、すぐに結果を出すことを求められる世界に生きているわたしたちにとって、特に大きな試練になっています。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこう語りました。「悪事を行うと、直ちに苦痛と悲しみが訪れ、大きな罰が下されるとしたら、過ちを繰り返す人はいなくなるでしょう。善を行うと、直ちに喜びと

平安が訪れ、報いが与えられるとしたら、悪事を行う人はいなくなることでしょ。そのような状況下では、あらゆる人が善を行うでしょうが、それは、そうするのが正しいからという理由で行っているではありません。そのような環境では、強さを試す機会、人格を形成する機会、力を伸ばす機会がなく、選択の自由もないでしょう。……喜び、成功、復活、永遠の命、神性も存在しないでしょう。」¹

日本札幌ステーク帯広ワードの河田利夫兄弟は、だれもが経験するように、人生の問題に直面し、重大な決断を迫られました。河田兄弟は1972年に教会員になり、1978年にハワイ州ライエ神殿で妻のみゆき姉妹と結び固められました。河田夫妻には二人の息子がいます。河田兄弟は長年にわたって、帯広支部の支部長、日本釧路地方部の部長、日本札幌伝道部の副部長を務めてきました。

20年以上前、家族を築いて間もない河田兄弟は、酪農を営む父親のもとで働いていました。ある日、悲劇が起きました。火事に遭い、乳牛を飼育していた大きな納屋と設備がすべて燃えてしまったのです。財政的に破綻した父親は農協へ融資を申請しましたが、認められませんでした。このため、父親と兄は自己破産を申告しました。一方河田兄弟は、法律上の責任はないにもかかわらず、すべての負債を返済しなければならぬと感じていました。

どうすれば解決できるかを深く考え、ニンジン栽培することを決意しました。ジャガイモを栽培したことはありましたが、ニンジンを栽



徳的な選択の自由を正しく使うならば、障害を克服し、神性をはぐくみ、永遠の命にふさわしくなることができます。

培する方法については何も知りませんでした。種を植え、ニンジンが育つよう熱心に祈りました。

このような時期も河田兄弟は教会の責任を忠実に果たし、安息日を聖く過^{きよ}ごし、什分の一を納め続けました。いちばん上等の服を着て、日曜日に教会へ出かける河田家族を見て、近所の人たちはあざ笑いました。1週の中の1日を割くことは痛手でした。特に収穫期は大変でした。什分の一を納めることはいつも容易なわけではありませんでしたが、従順にまた喜びをもって主にささげ物をしました。

秋になりました。河田兄弟の育てたニンジンはととても甘く、大きく、鮮やかに色づいていました。大量に収穫できたニンジン販売するため、農協の援助を受けようとしたが、断られてしまいました。河田兄弟は断食し、祈ったところ、東京で仲買人を探してみるべきだという印象を受けました。けれども、知り合いも、つてもない中で、東京の仲介業者を探すのは、とても難しいことでした。

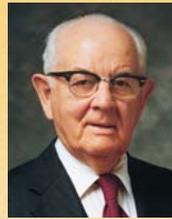
祝福されて、河田兄弟は東京の大手の流通業者と契約を結ぶことができました。それ以降、大きな成功を収めて、父親の借金をすべて返済することができました。現在、河田兄弟は多くの従業員とともに大々的に農業を営み、若い人たちに農業の運営方法を指導しています。

河田兄弟は過酷な試練に遭いながらも、バプテスマ、神権、神殿の聖約で交わした約束を忠実に果たすことを選んできました。問題が解決するまでというもっともらしい理由をつけて、安息日に働き、教会の奉仕をせず、什分の一を納めないという選択をすることもできました。しかし彼は「まず神の国と神の義とを求めなさい」という戒めを守ることを決意して、まさしく「これらのものは、すべて添えて与えられる」ということを知ったのでした(マタイ6:33)。

わたしが河田利夫兄弟を尊敬しているのは、苦難に打ち勝ち、農業で成功を収めたからだけではありません。困難な時期にあって、たとえすぐに報いが得られるという保証がなくても、あるいは物質的な報いがまったく得られないとしても、勇気ある選択をしたことに特別な感動を覚えたのです。義にかなって選択の自由を行使し、永遠の原則に従ってしっかりと歩んだ河田兄弟の模範は見習う価値のあるものです。■

注

1. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 77



安息日を守ること

「安息日を守るには犠牲や自制が要求されるとよく言われます。しかしその言葉は当たっていません。……安息日は価値ある聖い事柄を行う聖日です。

仕事とレクリエーションを控えることは大切ですが、それだけで十分ではありません。安息日には思いと行いを建設的なものにする必要があります。……この戒めを守る人は、ひざまずいて祈り、レッスンを準備し、福音を学び、^{めいぞう}瞑想し、病気の人や悲嘆に暮れている人を見舞い、宣教師に手紙を書き、午睡し、健全な本を読み、出席するよう期待されているすべての集會に出席します。」

大管長 スペンサー・W・キンボール (1895-1985年)

「安息日——喜びの日」

『聖徒の道』1978年7月号, 4参照



河田利夫兄弟の証^{あかし}

妻 とわたしは農業に携わっていましたが、結婚するときに、安息日を聖なる日として守り続けることを決意しました。1978年にスペンサー・W・キンボール大管長が発表した大管長会メッセージは今でも覚えています。大管長は、日曜日に、動いていない農機具が畑に放置されている光景をどれほど喜ばしい思いで眺めたかについて語りました。大管長はまた、末日聖徒にとって、安息日を聖く過^{きよ}ごすことが、どのように信仰を表すことになるのかについて教えてくださいました(「安息日——喜びの日」『聖徒の道』1978年7月号, 1参照)。

当時のわたしたちはほかの農家と共同で農機具を使って

いました。ほかの人と共同で作業をしているときに、日曜に働かないことを告げるのは容易ではありません。そのため、共同農耕組織を脱退し、ジャガイモの栽培から手を引いたのです。

召しについて

当時わたしは支部長をしていました。日曜日に教会へ行かなければ責任を果たせません。午前3時に起きて、牛乳を搾り、家畜に餌を与え、それから教会へ行って、面接を行い、夕方の5時に帰宅するようなことが何度もありました。それからまた、牛乳を搾るのです。すべての作業を終えると10時ころになっていました。当時は、ため息をつきながら「やっと終わったよ」と、よく口にしていました。

安息日を守るために払った犠牲について

安息日を破らないようにするために土曜日の真夜中まで働いたことが時々ありました。そのようなときは睡眠時間をあまり取れないまま、教会へ行きました。ある日、教会から戻ると、1頭の牛が農場の柵に挟まって、死んでいました。また、安息日に雨が降ったために、刈り取って積み上げておいた牧草がだめになって数百万円の損害を受けたことが何度かありました。そのような事故は日曜日だから起きたわけではないことを知っていました。そんなことにくよくよしては、安息日を守ることはできません。不慮の出来事は時を選ばずにやって来ます。

信仰と堪え忍ぶこと

納屋が焼けて、畜牛を失ったときのことについて、ある人が言いました。「あの状態から立ち直れたなんて、信じられませんが。」わたしたちはこう答えました。「立ち直るための唯一の方法に従ったのです。それ以外の方法では無理だったでしょう。」わたしたちはただ安息日を守ることと、苦しみを乗り越えることだけを考えていました。神様が見守ってくださり、祝福してくださっていることを信じていました。

ニンジン栽培することについて

わたしたちはニンジン栽培して、大きな成功を収めました。ついに、落ち着いた生活ができるようになったのです。ニンジンのおかげで、雨が降っても、毎週日曜に休みを取っても、心配



する必要がなくなりました。物事を自分で決められるようになりました。どのような召しが来ても、以前より果たしやすくなりました。

わたしたちは大勢のパートを雇っています。仕事の最盛期を迎えると、従業員は日曜日にも仕事をすることを提案します。しかし、日曜は働かないことをきっぱりと言います。このことが分かった従業員は一生懸命に働いて、平日に休暇を取ることもほとんどありません。若い従業員は子供たちと一緒に過ごす日として、年配の従業員は孫を訪れる日として、日曜日を過ごしています。

主への感謝

わたしたちにとって神の戒めを守ることは重大なことです。安息日を聖く過ごすことを固く決意しています。それを曲げるつもりはありません。できる限りのことをして生きてきた親の背中を見て、子供たちは、神がおられること、神が祝福してくださることを学びました。子供たちは真剣に耳を傾け、記憶にとどめてくれています。

長男が日本福岡伝道部で伝道していたとき、伝道部長はよくこう言って息子を紹介してくれました。「河田長老のお父さんは安息日を聖く過ごすようにするために、ジャガイモの栽培をやめました。河田長老はそのような家庭で育ちました。」

子供たちを見ると幸せを感じます。子供たちは教会に来ています。伝道に出て、神殿で結婚しました。わたしたちは天のお父様に感謝しています。お父様はわたしたちを御存じであり、祝福してくださいませ。■





神殿 について話す

シャナ・バトラー
教会機関誌

父に神殿で結婚することを伝えようとしたときは息が詰まりそうでした。恐らく、夫が父から結婚の承諾を得たときよりも大変だったことでしょう。父は別の信仰を持った立派な人でした。以前から何度も、結婚は神殿ですと伝えてきました。戸惑う様子はなかったものの、いざ結婚となると唯一の子供の結婚する姿を見られずショックを受けたり、腹を立てたりはしないかと気がかりでした。

ありがたいことに、父は自分が神殿に入れないことよりも、わたしの幸せを第一に考えてくれました。父は受け入れてくれましたが、周りの人々は教会が神殿に対してどうしてそんなに厳格なのか理解することができませんでした。

神殿について疑問を持っているのはこの人たちばかりではありません。多くの人が、教会は神殿について口を閉ざしていると考えています。しかし、わたしは預言者たちの言葉が真実であることを知っています。神殿は秘密(secret)ではなく、神聖(sacred)なのです。¹

神殿で行われることを詳しく話すべきではありませんが、「神殿では何をしますか」「なぜ入ってもらえないのですか」といった質問をする人に伝えられることがあります。以下は皆さん

が尋ねられるであろう質問と、末日聖徒の神殿に対して疑問を抱いている人に提供できる情報の一例です。

「教会にはなぜ神殿がありますか」

世の初めから、主はその民に神殿を建てるように命じてこられました。² 教会が回復されると、主は預言者ジョセフ・スミスに神殿を建てるよう命じられました。神殿は主の宮です。³ 神殿では神聖な儀式が執り行われます。それはこの奉獻された建物でしか執行できません。⁴

神殿が教会員にとって特別で神聖な理由は、そこで執り行われる儀式が、神のもとへ戻り、家族と永遠に結ばれるための備えとなるからです。

「わたしはなぜ神殿に入れないのですか」

神殿は神聖な聖約を交わす聖なる場所であり、神殿に入る人は霊的な備えをし、教会の標準に従って生活する教会員でなければなりません。

改宗して少なくとも1年経過し、監督や支部長からふさわしいと認められ、神殿推薦状を交付された成人であれば、だれでも神殿に参入することができます。神殿に参入するためのふさわしさには、様々な条件とともに、清い生活をする^{じゆうぶん}こと、誠実であること、知恵の言葉を守ること、^{じゆうぶん}自分の一とささげ物をささげることが求められます。



神殿で結婚することを父に話すことになったとき、それがどれほど難しいかが分かりました。神殿で行われることを詳しく話すべきではありませんが、質問がある人たちに伝えられ、役に立つ事柄が幾つかあります。

「教会員は神殿でどんなことをしますか」

教会員は、神殿で永遠の結婚などの神聖な儀式に携わります。永遠の結婚は、夫と妻がこの世から永遠にわたって結び固められる儀式です。神殿は教えを受け、礼拝し、会員が主イエス・キリストに仕えることを聖約する場所でもあります。また教会員は、イエス・キリストの福音を受け入れる機会がなくこの世を去った人々の代わりに、バプテスマや確認などの儀式を執行します。神殿では、皆奉仕で働いています。

「教会員はなぜ小さなかばんを持って神殿に行くのですか」

神殿では、通常の服装から慎み深く簡素な白い服に着替えます。白は清らかさと敬虔^{けいけん}さを象徴しています。かばんには神殿着を入れて行きます。

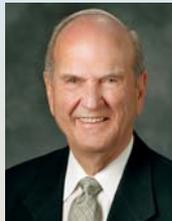
「神殿の内部はどのようになっていますか」

(神殿の奉献前に実施される)オープンハウスでは、訪問者が神殿の内部を見て回ることができます。神殿は美しく飾られ、非常に清潔に保たれています。内部には結婚式など目的に合わせて様々な部屋があります。神殿の敷地と訪問者センターは通常だれでも入ることができます。神殿内部の写真は、この記事の最後の段落に書かれた二つの冊子に載っています。

地元にある神殿の開館時間と場所は、www.lds.org/templesで知ることができます。神殿に関する記事を探したときは、www.lds.orgのオンライン教会機関誌にアクセスし、「福音図書館 (Gospel Library)」をクリックしてください。

「もっと詳しく知るにはどうしたらよいですか」

さらに多くの情報を人々に伝えたいければ、www.lds.org/templesにアクセスしてください。神殿の歴史と目的、一般的



神殿に参入する備え

「神殿は神聖であるため、主は神殿を汚すことのないよう望んでおられます。神殿の祝福という特権に

あずかるために進んで備える人は、だれでも神殿に参入することができます。備えは努力という形でも表現されます。まだ若いころ、両親に大学へ進学したい気持ちを伝えました。すると両親は、勉学に熱心に励み、入学に必要なあらゆる条件を満たして初めてそれが可能となることを教えてくれました。同様に、神殿に参入するためにはその資格を満たさなければなりません。肉体的に、知的に、そして霊的に備える必要があるのです。」

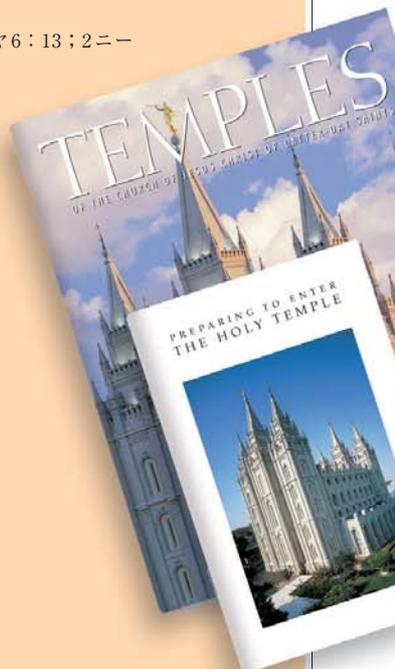
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
“Prepare for Blessings of the Temple”
Ensign, 2002年3月号, 18-19

な質問に対する答え、家族歴史と神殿の業との関係についてさらに知ることができます。

神殿に関する質問に答えるに当たってさらに助けが必要な場合は、『末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿』(35863 300)や『聖なる神殿に参入する備え』(36793 300)を読むとよいでしょう。『聖なる神殿に参入する備え』の英語版は、www.lds.orgのサイトにも掲載されています。「福音図書館」(Gospel Library)にアクセスし、「教会出版物」(Church Publications)、「教科課程」(Curriculum)、「オプションルコース」(Optional Courses)の順にクリックしてください。■

注

1. デビッド・O・マッケイ“The Purpose of Temples,” *Ensign*, 1972年1月号, 38参照
2. 歴代上22章; エズラ3-6章; ゼカリヤ6:13; 2ニーファイ5:16; ヒラマン3:14参照
3. 教義と聖約88:119; 97:12, 15参照。神殿の歴史と目的については、ボイド・K・バッカー「聖き宮居」『聖徒の道』, 1992年6月号, 14参照。
4. 教義と聖約124:37-40参照。



縮んでいませんか？ あなたの標準



体にぴったりしすぎていたり、
短すぎたり、露出しすぎたりするものは、
教会の標準にはぴったり合っていません。
世の中に合わせて自分の標準を変えないでください。
〔若人の強さのために〕14－16参照

着陸不能

ケネス・B・スミス

1951年1月、わたしたちはアラスカ州フェアバンクスに住んでいました。そこは、北極圏からたったの100マイル(160キロ)南に下った町です。当時、わたしはアメリカ空軍のパイロットで、各地へ貨物を輸送する任務のためにアラスカ州ノームでの2週間の任務を受けていました。

アラスカの冬は太陽の出ている時間がとても短く、日が照っていないとできない任務は、太陽が地平線より上にある短い時間に行う必要があります。1月、太陽は真昼に1時間足らず出るだけです。わたしはギャンベルの小さな前哨基地に貨物を運ぶことになりました。ギャンベルはセントローレンス島にある先住民の村で、シベリアのチュクチ半島から数マイル、ノームからベーリング海を横切って200マイル(320キロ)ほどの所に位置します。

その当時、セントローレンス島には飛行場がなく、海岸に近い凍結した湖を滑走路として利用していました。湖の氷の厚さは19インチ(48センチ)あったので、積み荷を満載にしたC47貨物機が着陸しても問題はありませんでした。しかし、照明施設が整っていないため、日の出時間である午前11時30分に到着できるよう計画し、出発は1時間後の日の入り、午後12時30分に予定しなければなりませんでした。

気象予報士が「その日一日は好天だ」と断言したため、わたしはギャンベルの基地の人々に向けた貨物を1,000ポンド(450キロ)余分に積めるよう、飛行機の燃料を満タンにしないことにしました。ギャンベルとノームの往復分

と、予備として30分余計に飛べるだけの燃料を補給したのです。

離陸は午前10時でした。雲の切れ間から星がちらちらと見えます。ギャンベルには予定どおり到着しました。ちょうど北極の太陽が地平線から顔を出し始めていました。飛行機は着陸し、わたしたちは部隊のために荷物を降ろしました。

そして、再び離陸する準備ができたときには、辺りは薄暗くなりかけていました。離陸した直後、ギャンベルの气象台から緊急の連絡が入り、ノームの天候を確認するように言われました。飛行を続けながらノームに無線連絡を入れたところ、北極からのブリザードが張り出してきているとのことでした。あと1時間のうちに、地上での視界は1マイル(1.6キロ)を切るだろうと予測されました。ノームにはレーダー着陸システムは配備されておらず、このような状況では、空港としては着陸許可を出すわけにはいきません。たった30分のフライト分の余剰燃料では、別の空港まではもちません。いずれにしても、巨大な吹雪が急接近している状況では、北アラスカには着陸できる空港はありませんでした。

言うまでもなく、わたしたちは危険な状況に置かれていました。外気は摂氏マイナス40度で、風速15メートルの暴風です。そのような環境にパラシュートで飛び出すことは、ほぼ即死を意味します。

幼いころから祈るように教えられ、毎日祈ってはいましたが、あの日ほど主の助けを必要としたことはありませんでした。わたしは天の御父に、何を

すべきか尋ねました。わたしにはフェアバンクスに住む妻と3人の子供がいます。そして副操縦士と搭乗員長にも家族がいます。わたしたちは、もしも天の御父の助けがなければ、家族とはもう二度と再会できないことが分かっていました。祈りをささげ、1時間ほど飛行を続けたとき、ノーム空港近くのどこかに不時着し、その衝撃に耐えることができればだれかが発見してくれるかもしれないという気になりました。

わたしたちが窮地に陥っていることは、ノームの無線室からアラスカ空軍司令部に知らされており、対応方法に関するわたしの意見を出すよう、緊急の要求が出されました。不時着のことをノームに伝え、このような天候ではそれは不可能だと即時に返答がありました。かといって、代替案は示されませんでした。

ノームに近づいたとき、わたしは通信士に、燃料が続くかぎり低空飛行を繰り返して雲の切れ間を探してみると伝えました。3回トライしましたが、視界をふさぐ吹雪以外には何も見えません。4回目のアプローチのとき、ほんの一瞬、赤いライトが点灯したのが目に入りました。そして最低飛行高度に達したとき、わたしの眼前にちらりと白いライトが見えました。どこで見たのかを記憶にとどめるには十分な時間です。飛行場の上空であることに間違いはありませんが、厳密にどこを飛んで

いるかは想像すらつきませんでした。

今しかチャンスがないことは分かっていた。恐らく墜落するか、もしくは爆発するだろうと思っていました。しかし、飛行機は滑走路の真ん中に着陸し、何の問題もなく停止しました。

そのような着陸ができる確率は天文学的な数字になります。主の助けがなければ、飛行機をあのように着陸させることは不可能でした。主はどのように助けてくださったのでしょ

うか。まず、管制塔の制止にもかかわらず、どこに着陸させればよいのかを教えてくださいました。そして、わたし

には分からない何らかの方法で、主はわたしを滑走路へと導いてくださったのです。

祈りには力があることを^{あかし}証します。主に不可能はありません。主を心から求め、教えに従おうと努めるなら、主はわたしたちを助けてくださいます。■

ケネス・B・スミスはユタ州セントジョージ・モーニングサイドステーク、モーニングサイド第5ワードの会員です。

低 空飛行を
3回
繰り返して
雲の切れ間を
探してみましたが、
視界をふさぐ
吹雪以外には
何も
見えませんでした。



父への贈り物

シルビア・ジラード

まだ2歳の幼いころに、わたしは父を悲惨な事故で亡くしました。当時わたしには7歳の姉と6歳の兄がいました。3人の幼い子供を養う必要があった母にとって、その後の生活はとてもつらいものでした。何かの理由で、母はわたしに、父が旅行に出ていると言うことにしました。きっと、あまりにも悲しい出来事だったので、ほんとうのことを伝える勇気がなかったのでしょう。

わたしは父と会うことを心待ちにしていましたし、優しい声を聞いたり、腕に抱かれたりするのを楽しみにしていました。誕生日が来ては待ち、クリスマスが来ては待つ、ということの繰り返しでした。

そんなある日、近所に住む同い年の女の子がわたしに真相を告げました。わたしは大きな衝撃を受け、激しく泣きました。以前にも増して父親と一緒にいる子供たちが目につくようになりました。何て自分は惨めなのだろうと思いました。

月日は過ぎ、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会でバプテスマを受けました。そして善良な男性と結婚しました。彼は教会員ではありませんでしたが、証を得、バプテスマを受ける決意をしてくれました。

教会の会員であることにより、人生の中で最もすばらしい祝福が与えられました。わたしたちは家族が永遠であることを学びました。今までばらばらだった家族の鎖が、世代を超えてつながるので、神殿の儀式を通して、父は身代わりのバプテスマを受けることができ、父の両親と結び固められました。そして、ついにはわたしも父と結び固められたのです。

夫はわたしの父のためにバプテスマを受け、わたしたちは必要な神殿の儀式をすべて完了しました。主の御霊は、わたしたちに大きな喜びを運んでくれました。子供のときに経験した苦悩は、この喜びと祝福に比べれば取るに足りないものに思われます。家族が永遠であるという知識は、父とともに過ごせたであろうクリスマスや誕生日よりもすてきなことです。

現在、父は父の両親と結び固められ、その両親はまたその両親に結び固められています。わたしはとても幸せな経験をしたので、先祖がともにいられるよう、自分の時間の多くを家族歴史にささげるようにしています。神殿の働きは、わたしたちの生活に最も大いなる祝福をもたらしてくれます。■

シルビア・ジラードはユタ州マグナ中央ステーク、スペンサー第5ワードの会員です。



ドアを開けてはいけない!

ジャネット・ダン

その夜はとても冷え込み、雪が激しくたくさん降っていました。わたしは暖かくて安全な家におり、3人の子供たちは安らかな寝息を立てていました。夫は監督会のために約5マイル(8キロ)離れた教会に行っていました。8時30分ごろ、思いがけずだれかがドアをノックしました。そのとき、突然わたしの中に、「ドアを開けてはいけない」という強い思いを感じました。このような確信、つまり危険に対する警告をそれほどまでに強く感じたことはありませんでした。

そのため、「どなたですか」との問いに、夫の兄弟だという答えが返ってきたときにはとても驚きました。夫のたった一人の兄弟マイケルは教会員で、70マイル(100キロ)離れた所に住んでいます。彼とはとても良い関係にあり、以前から何度もそうしていたように、家に訪ねて来ることは何ら不思議なことではありません。数日泊まっていくこともあります。電話をしてこなかったことも、驚くことではありませんでした。荒天のため、電話が通じなくなっていたからです。わたしは何も心配する必要はなかったはずですが、こんな寒い夜に彼を迎え入れるのはごく当然のことなのです。

強く感じた気持ちの意味や、自分がどうして彼に「夫は教会にいるからそちらに行ってくれない?」と彼に言うように促しを受けたのか理解できませんでした。ぎこちない沈黙の後、義理の兄弟は少し奇妙な様子で、その日は電

車とバスを乗り継いで来て、今は雪が深くなっているということを話しました。

ある理由のため決してドアを開けてはいけないという力強い促しを引き続き感じました。わたしは気を落ち着けて、「申し訳ないけど、教会に行って夫と会ってくださらない？」と、もう一度伝えました。

その日の晩、わたしは自分のしたことについて思い返していました。「マイケルが、寒い冬の夜に電車とバスで何時間もかけて訪ねて来たというのに、かわいそうに、わたしは追い返してしまった。どこのだれがそんなに思いやりのないことができるだろう。」しかし同時に、「危険が迫っているので、ドアを開けてはならない」という強い警告を受けたという確信も否定できませんでした。

夜も更け、夫が戻るころにはわたしはほとんど眠りかけていました。夫とそのときの状況を少し話しましたが、夫は確かに彼と教会で会って、今は階下で眠っていると言いました。わたしはもう恐れを感じず、その夜はぐっすり眠りました。

翌朝、わたしはどうやってマイケルに昨晚の行動を説明しようかと頭を悩ませました。彼は怒るかもしれませんが、深呼吸をして、朝食の準備のために台所に入りました。「マイケル、昨晚のことだけど……。」話しかけてやめました。怒るとこ

ろか、彼がほほえんでいたからです。

「昨日の夜はほくたちを入れてくれてなくてよかったよ」と彼は言います。彼が一人でなかったとは知りませんでした。続けて彼は、電車の中で学校の旧友であるスティーブと出くわしたことを話してくれました。スティーブが麻薬のせいで精神的に異常な状態に陥っていることにしばらく気づかなかったため、マイケルは自分が今からどこへ行くのかを話してしまっていました。スティーブは時間がたつにつれてますます凶暴になり、お金と眠る場所を求め、そして義理の兄弟が言うところの「最低最悪の魂胆」をもって無理やりマイケルを家まで案内させてきたと言うのです。

マイケルが続けます。「だから、ドアの外に立っているときにほくたちを入れてくれるようにお祈りしていたんだ。遠くの教会に向かって歩き出したときには、もうスティーブ

は興味をなくしていて、どこかほかに行って『楽しみ』を見つけると告げ、いなくなったのさ。」

あの日の夜、わたしや家族にどのようなことが起こり得たかは想像もつきません。しかし、地上で最も価値のある教訓を学べたことに永遠に感謝し続けるでしょう。それは、聖霊の促しに従うということです。たとえ納得できる理由がなかったとしても、その小さな細い声により頼むことでわたしたちは守られるのです。■

ジャネット・ダン
はイギリス・リーズ
ステーク、リーズ第4
ワードの会員です。

ドアを
ノックする音を
聞いたとき、
突然わたしの中に、
ドアを開けては
いけないという
強い思いを感じました。



指導に関する記事をお寄せください

良い指導法の下では、物語や実例を通して最もよく学ぶことができます。あなたは指導者として、自分が仕える人々の生活を祝福するために特別な努力をしたことがありますか。もしくはあなたの生活は靈感を受けた指導者によって祝福されてきましたか。『リアホナ』の読者にあなたの経験を紹介してください。

電子メール—

cur-liahona-imag@ldschurch.org

郵送—

Leadership Experiences *Liahona*
50 East North Temple Street,
Floor 24,
Salt Lake City, UT 84150-3220. USA

住所、氏名、電話番号、電子メールアドレス、ワード/ステーク(支部/地方部)を明記してください。



困難なときの答え

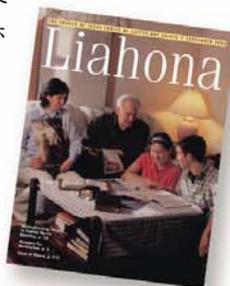
『リアホナ』は、何度も困難なときに答えを示してくれたので、わたしたちにとってとても特別なものです。リーハイの家族にとってそうだったように、『リアホナ』はわたしたちにとっても真の羅針盤となってきました。我が家にこの機関誌が届くまでの過程で働くすべての人に感謝します。

ブラジル・

フォルタレザ南ステーク

ベネザ支部

フランシスコ・デ・アシス・スーザ・ドス・レイス
マルタ・レジャン・サンタナ・デ・スーザ・レイス



のおかげでわたしたちは教化され、強められて、現代の世にある様々な試練を克服することができるようになります。今、世の中にはたくさんの悪がありますが、そのような中でも人々は真理を求めています。預言者ジョセフの時代と同じように、人々は混乱していて真実の教義を聞きたいと望んでいるのです。毎月送られてくるすばらしい贈り物に感謝します。

ベネズエラ・

サンクリストバルステーク

カバチョ支部

フェリックス・オマル・サルミエント・パラダ

新しい始まり

父が突然に亡くなったとき、悲しみのあまり、とても耐えられそうにありませんでした。教会員になってすでに16年が過ぎており、このような経験に対する準備はできていると思っていたのですが、実際には、もがき苦しみました。

父の死から1か月ほどたったある晩、2004年9月号の『リアホナ』を手にとって読み始めました。「末日聖徒の声」のコーナーで、「死は新しい始まり」という題のクラウディア・ヨランダ・オーティス・エレラの記事がすぐに目に留まりました。筆者の経験がとても似ていて、3度その記事を読んで、たくさんのことについてそれまでよりもよく理解できるようになり、心が穏やかになりました。天の御父とイエス・キリストが生きておられるという証は強められ、確かに死は単なる始まりにすぎないと気づきました。『リアホナ』とすばらしい記事にとても感謝しています。

コロンビア・

バランキージャ・ヒポドロモステーク

コスタエルモサワード

ズリマール・ロドリゲス・カストロ

『リアホナ』は信仰を持つ助けになります

初めて目にした『リアホナ』は、当時は友人で後に夫となった人が、アルゼンチンとチリでの伝道を終えて合衆国に帰還したときに持ち帰ったものでした。その後わたしはチリで伝道しましたが、この機関誌が大好きで、信仰を築くのに役立つ『リアホナ』を会員たちが持っていたことにとても感謝しました。現在トンガで年配の宣教師として、教会でのレッスンに『リアホナ』

を使っています。『リアホナ』をありがとう!

トンガ・

ヌクアロファ伝道部

メアリー・ルー・

エルスワース姉妹

真理を求め たくさんの人

福音のもたらす偉大な祝福を分かち合う機会に感謝します。『リアホナ』



「ウィルフォード・ウッドラフ長老」 フィリッポ・ピストラッシ画

ロンドンで宣教師をしていたとき、当時33歳のウィルフォード・ウッドラフは妻フィービーの要望にこたえて、「肖像画を描かせ」た。

彼はこう記している。「肖像画のためにピストラッシ氏の前でポーズを取るのも今日が最後だった。

彼によれば、『まさにそっくりだそうだ。』

最近修復されたこの肖像画は、ウィルフォード・ウッドラフ長老を描いた絵としては、最も若いころの肖像として知られている。



「**ア**ダムは、自分がしなければならなかったことを行っただけです。
アダムはある良い動機でその実を食べました。
それにより、皆さんやわたし、またすべての人を
この世に送り出す扉が開かれました。
……わたしはアダムに感謝したいと思います。
この地上に生まれ、死すべき状態を経験する特権にあずかり感謝しています。
教会の会員として、また神の王国にあって
自分に与えられている聖約と義務に正直で誠実であるならば、
わたしは永遠の御父のもとに戻る特権を与えられるでしょう。」
ジョセフ・フィールディング・スミス
「人に死すべき体をもたらしたアダムの役割」8ページ参照